

HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY
ARCHITECTURAL DESIGN WORKS '17

Vol.24

Graduation design presenter list '17

Gensei Kato
Syuuto Taniura
Aoshi Matsumoto
Shouta Sahara
Masami Hanabusa

Yukito Shigeizumi
Ayana Matsuo
Chiho Iwaki
Koichi Naya
Takuya Miura

2017

CONTENTS

2017年度「北海学園大学 工学部建築学科 設計作品集」

HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY ARCHITECTURAL DESIGN WORKS'17

subject	page	student no.	name	title						
卒業設計	4年生	02	4314212 加藤 肇生	Gensei Kato	STOMACH COMPLEX ＜2017年度北海学園大学工学部建築学科 最優秀作品＞ ＜近代建築別冊「卒業制作2018」掲載作品＞ ＜せんだいデザインリーグ2018 100選＞					
		10	4314120 茂泉悠希斗	Yukito Shigeizumi	木漏れ火の棲み処 ＜2017年度北海学園大学工学部建築学科 優秀賞作品＞ ＜2018年度日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」出展作品＞					
		15	4314126 谷浦脩斗	Syuuto Taniura	はじまりと終わりのじかん					
		16	4314136 松尾彩菜	Ayana Matsuo	墨色 一色づきしみだす書一					
		17	4314138 松本蒼志	Aoshi Matsumoto	駐輪ビル 一都市に根付く3つの駐輪施設一					
		18	4314203 岩木智穂	Chiho Iwaki	風景と生きる ＜JIA北海道支部学生卒業設計コンクール2018 審査委員特別賞＞ ＜北海道卒業設計合同講習会2018 鈴野賞＞					
		19	4314225 佐原翔太	Shouta Sahara	北海道大学医学部キャンパスの将来計画と診療・研究・教育融合新棟の提案					
		20	4314233 納谷混一	Koichi Naya	廻り道					
		21	4314237 英まさみ	Masami Hnabusa	演じる建築 一旧新通り市場に介入する小劇場群一					
		22	4314241 三浦拓也	Takuya Miura	境界を繋ぐ駅					
		23	2017年度卒業設計提出者リスト							
		造形演習 I	1年生1学期	24	4317107 岩谷 蓮	Ren Iwaya	問題用紙をモチーフとした平面構成			
				4317124 新井田彬	Akira Niida	問題用紙をモチーフとした平面構成				
				4317206 片山菜月	Natsuki Katayama	問題用紙をモチーフとした平面構成				
4317215 高橋李華	Momoka Takahashi			問題用紙をモチーフとした平面構成						
25	4317121 田中陽菜子			Hinako Tanaka	季節をテーマとした自画像					
4317102 麻生香実	Koumi Asou			季節をテーマとした自画像						
4317218 徳田愛礼	Aaya Tokuda			季節をテーマとした自画像						
4317226 丸山莉奈	Rina Maruyama			光をテーマとした平面構成						
4317228 向井芽愛	Mei Mukai			光をテーマとした平面構成						
4317136 吉岡 葵	Aoi Yoshioka			光をテーマとした平面構成						
造形演習 II	1年生2学期			26	4317125 長谷川千紗	Chisa Hasegawa	コラージュを主体とした平面構成			
				4317122 田中裕二郎	Yuujiro Tanaka	コラージュを主体とした平面構成				
				4317224 前田優人	Yuuto Maeda	コラージュを主体とした平面構成				
				4317137 吉田稀一	Kiichi Yoshida	コラージュを主体とした平面構成				
		27	4317208 後藤悠也	Yuuya Gotou	身の回りのモノをモチーフとした細密画					
		4317127 原 真仲	Manaka Hara	身の回りのモノをモチーフとした細密画						
		4317120 高橋茉佑	Mayu Takahashi	身の回りのモノをモチーフとした細密画						
		4317222 平田奈羅	Nara Hirata	建築と私をテーマとした立体構成						
		4317106 岩佐香菜子	Kanako Iwasa	建築と私をテーマとした立体構成						
		4317126 濱野泰寿良	Takayo Hamano	建築と私をテーマとした立体構成						
		空間デザイン 演習基礎	2年生1学期	28	4316115 加藤 僚	Ryo Kato	個人・小グループ課題 / 橋を架ける			
				4316142 矢野航弥	Kouya Yano	個人・小グループ課題 / 橋を架ける				
				4316211 久須美遥平	Youhei Kusumi	個人・小グループ課題 / 橋を架ける				
				4316232 朴木敬亮	Takaaki Hoonoki	個人・小グループ課題 / 橋を架ける				
4316108 上田真史	Masashi Ueda			個人・小グループ課題 / 橋を架ける						
4316134 土肥将大	Shouta Dohi			個人・小グループ課題 / 橋を架ける						
4316215 佐藤拓未	Takumi Sato			個人・小グループ課題 / 橋を架ける						
4316106 市呂弥生也	Mikia Ichiro			個人・小グループ課題 / 橋を架ける						
4316127 鈴木俊也	Syunya Suzuki			個人・小グループ課題 / 橋を架ける						
4316214 小林祐斗	Yuto Kobayashi			個人・小グループ課題 / 橋を架ける						
4316246 吉川明里	Akari Yoshikawa			個人・小グループ課題 / 橋を架ける						
subject	page			title	student no.	name	student no.	name		
Hexagon グループ課題 / 光を…あじわう	29			Hexagon グループ課題 / 光を…あじわう	4316101	青木祥太	Shouta Aoki	4316203	太森由都子	Yuiko Uzumasa
					4316110	内海綾太	Ryota Utsumi	4316225	中里瑞己	Mizuki Nakasato
		4316133	富永琢斗		Takuto Tominaga	4316226	中田悠輔	Yuusuke Nakata		
		4316138	藤原大也		Hiroya Fujiwara	4316237	松野晃大	Kodai Matsuno		
		4316116	加納誠也		Masaya Kanou	4316207	上山仁也	Masaya Kamiyama		
		4316118	菊地亮汰		Ryouta Kikuchi	4316208	川勝祐慶	Yoshinori Kawakatsu		
		4316122	五嶋 楓		Kaede Goshima	4316238	三浦光雅	Mitsumasa Miura		
		4316146	渡辺 諒		Ryo Watanabe	4315201	阿部大輔	Daisuke Abe		
		4316104	井坂成吾		Seigo Isaka	4315140	船木駿次	Shunji Funaki		
		4316114	風間雄太		Yuuta Kazama	4316210	菊池拓実	Takumi Kikuchi		
		4316124	佐藤茉由		Mayu Sato	4316222	千葉貞治	Sadaharu Chiba		
		4316132	戸田俊也		Toshiya Toda	4316236	増田 歩	Ayumu Masuda		
		4316112	太田百香		Moka Ota	4316202	井沼優斗	Yuuto Inuma		
		4316121	小林駿介		Shunsuke Kobayashi	4316205	大里拓人	Takuto Osato		
4316123	堺 大樹	Hiroki Sakai	4316229	樋口菜里咲	Marisa Higuchi					
4316145	渡邊憲成	Kensei Watanabe								

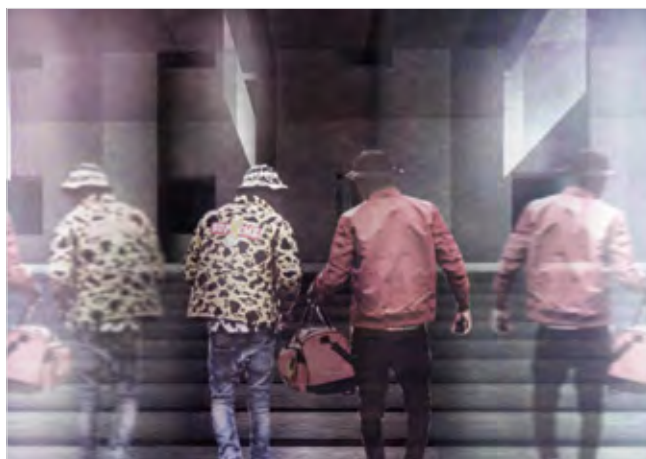
subject		page	student no.	name		title	
空間デザイン 演習 I	2年生2学期	30	4316145	渡邊憲成	Kensei Watanabe	カフェ・テラス	
		31	4316238	三浦光雅	Mitsumasa Miura	カフェ・テラス	
		32	4316133	富永琢斗	Takuto Tominaga	小課題「住宅をさがそう」	
			4316204	内田春希	Haruki Uchida	小課題「住宅をさがそう」	
		33	4316145	渡邊憲成	Kensei Watanabe	住宅	
		34	4316238	三浦光雅	Mitsumasa Miura	住宅	
空間デザイン 演習 II	3年生1学期	35	4315145	本瀬祥子	Shouko Motose	デザイン・スクール	
		36	4315231	中川原佳奈	Kana Nakagawara	デザイン・スクール	
		37	4315107	岡田 彩	Aya Okada	小課題「建築作品をさがそう」	
			4315227	高見堂風花	Fuuka Takamido	小課題「建築作品をさがそう」	
		38	4315114	久保ふくの	Fukuno Kubo	テナント・ビル	
		39	4315231	中川原佳奈	Kana Nakagawara	テナント・ビル	
建築デザイン論	3年生1学期	40	4315110	小野陽平	Yohei Ono	籠り光	
			4315121	諏訪匡紀	Masaki Suwa	光の空間	
		41	4315227	高見堂風花	Fuuka Takamido	tunnel	
			4315125	多田峻平	Ryouhei Tada	かさなりみちびく	
空間デザイン 演習 III	3年生2学期	42	4315110	小野陽平	Yohei Ono	アート+建築=X	
		43	4315132	板東千尋	Chihoro Bando	アート+建築=X	
		44	4315110	小野陽平	Yohei Ono	電車通りの「みんなの家」	
		45	4315227	高見堂風花	Fuuka Takamido	電車通りの「みんなの家」	
空間デザイン 演習 IV	4年生1学期	46	4314138	松本蒼志	Aoshi Matsumoto	創成川公園前のトショカン	
		47	4314212	加藤弦生	Gensei Kato	創成川公園前のトショカン	
		48	4314136	松尾彩菜	Ayana Matsuo	光と邂逅する建築	
		49	4314203	岩木智穂	Chiho Iwaki	光と邂逅する建築	
第10回 ガクナイコンペ 2017	全学年	50	4314237	英まさみ	Masami Hanabusa	第1位 4年生	
		51	6316105	河中宗一郎	Syuichiro Kawanaka	第2位 大学院2年生	
			4316238	三浦光雅	Mitsumasa Miura	第3位 2年生	
			4317115	酒井唯衣	Yui Sakai	学年賞 1年生	
			4315132	板東千尋	Chihoro Bando	学年賞 3年生	
2017年度 コンペ入賞作品		52	6316105	河中宗一郎	Syuichiro Kawanaka	[2017年度札幌市主催 オリンピック・パラリンピックを考える学生アイデアコンテスト] テーマ:つながり ～みんなが参加する北海道・札幌冬季オリンピック・パラリンピック～ 優秀賞	
			6316106	吉田昂平	Kouhei Yoshida		
			4314120	茂泉悠希斗	Yukito Shigeizumi		
			4314126	谷浦脩斗	Shuuto Taniura		
			4314136	松尾彩菜	Ayana Matsuo		
			4314138	松本蒼志	Aoshi Matsumoto		
			4314203	岩木智穂	Chiho Iwaki		
			4314212	加藤弦生	Gensei Katou		
			4314233	納谷混一	Koichi Naya		
			4314237	英まさみ	Masami Hanabusa		
			4314241	三浦拓也	Takuya Miura		
		53	6316105	河中宗一郎	Syuichiro Kawanaka		[第8回テスクチャレンジ設計コンペ] 最優秀賞
			6316105	河中宗一郎	Syuichiro Kawanaka		[第1回フェーズフリー住宅デザインコンペ] 松崎元賞
			6316105	河中宗一郎	Syuichiro Kawanaka		[第42回北の住まい住宅設計コンペ] 最優秀賞
			4316145	渡邊憲成	Kensei Watanabe		[第42回北の住まい住宅設計コンペ] ベスト10入賞
		subject		page	student no.		name
2017年度 学外活動	4年	54	4314129	中野はるか	4314130	中村文哉	「地域の財産としての空き家活用 沼田町セルフリノベーション/空き家を移住体験住宅へ」
			4314132	野村成美	4314205	大坂研斗	
			4314212	加藤弦生	4314215	菊地博己	
			4314219	坂井駿斗	4314223	佐々木雄大	
			4314225	佐原翔太	4314227	鈴木恭輔	
			4314228	高田絵利	4314236	八箇良昂	
			4314244	横山梓織			
			4316206	大橋凜翔	1116241	中田混一 (経済学部)	
			4317120	高橋茉佑	4317121	田中陽菜子	
		4317128	藤田奈奈				
	修士設計		56	6316105	河中宗一郎	Syuichiro Kawanaka	雪の現象と共生する住居群形式の探求
			58	6316106	吉田昂平	Kouhei Yoshida	—岩見沢市の気候風土を前提とした住居系複合施設の具体的な提案— 北海道の自然と共生する住形式と建築材料の探求 —札幌市中央区曙地区における住居及び共有空間の具体的提案—
			60	2017年度科目担当教員リスト			

STOMACH COMPLEX

加藤弦生
Gensei Kato

4314212

2017年度北海学園大学工学部建築学科 最優秀作品
近代建築別冊「卒業制作2018」掲載作品
せんだいデザインリーグ2018 100選







問題点1 - 虚と実の狭間で -

スクリーンの中には異世界が存在する。それは“虚”の世界である。
現在の映画館では、“虚”である映画を観る空間と、“実”である都市の空間があまりにも近い距離で隣接してしまっている。この二つの異なる世界の軋轢が、映画の在り方すら変容させているのではないか。映画はまるでインスタントな消耗品かのように扱われ、映画が強くメッセージは消費され、生まれては消えてゆく。

解決策 - フェードイン・フェードアウト -

映画と都市を緩やかに繋げることが新しい映画館に必要である。
この建築は、映画と都市の間にフェードイン・フェードアウトの関係を作る。この関係が、映画との向き合い方を変える。映画を見つめなおし、自分を見つめなおすことで、映画を観て感じた何かを、映画館の外に持ち出すことができる。それが、現実の人生を変える手立てとなるのではないか。そんな、映画と現実をつなげる新しい映画館を提案する。



この建築を通して、いままで切り離されていた映画の世界と、現実の世界をつなげる。実際にはありえないような架空の映画でも、“そこから得られる何か”は現実の世界を変えることができるのではないだろうか。

問題点2 - ミニシアターの減少 -

現在、ミニシアターの数は減少傾向にある。グラフが不手通り、映画産業が衰退しているわけではなく、シネマ・コンプレックス（複数のスクリーンを擁し、1つの組織が運営を行う映画館）は近年増加傾向にある。ミニシアターは大手の配給会社の影響下にないため、シネマコンプレックスのように商業主義の全国ロードショー映画ばかりを上映するのではなく、経営者の好みやミニシアターの方針に従った映画作品が上映される。ミニシアターが減ることは、ミニシアターでしか上映されないような商業主義ではない映画作品を劇場で観ることができなくなるということである。



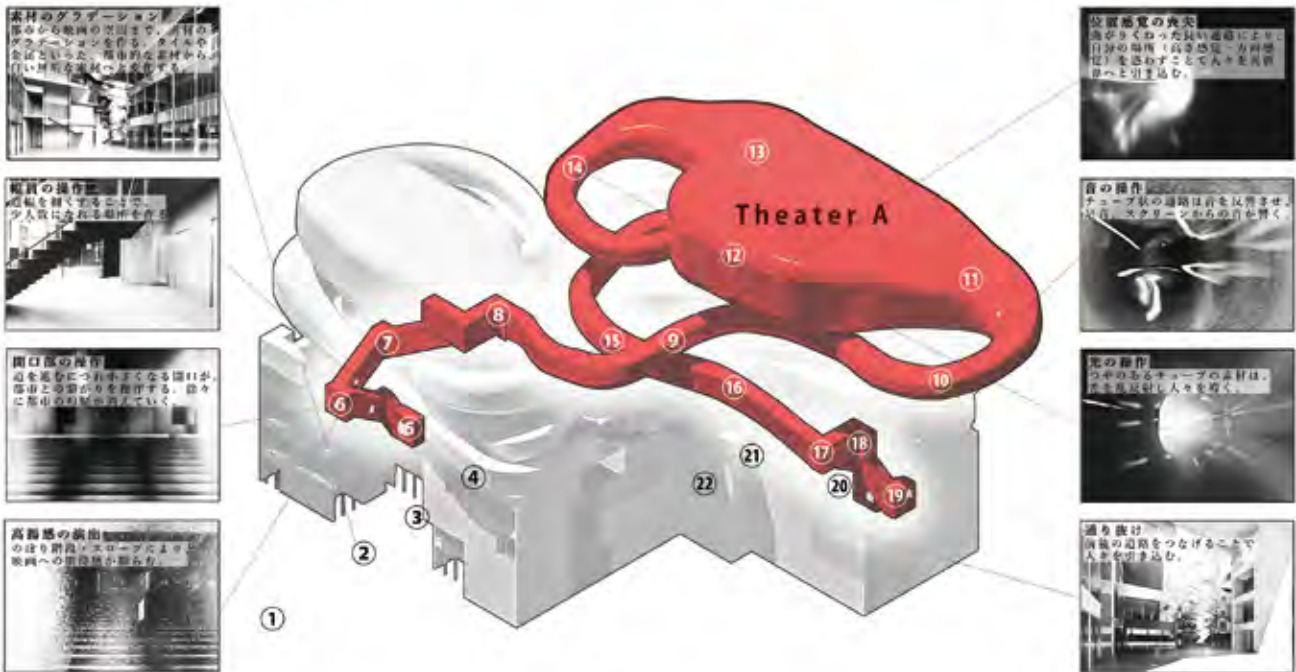
敷地 - ミニシアターの集約 -

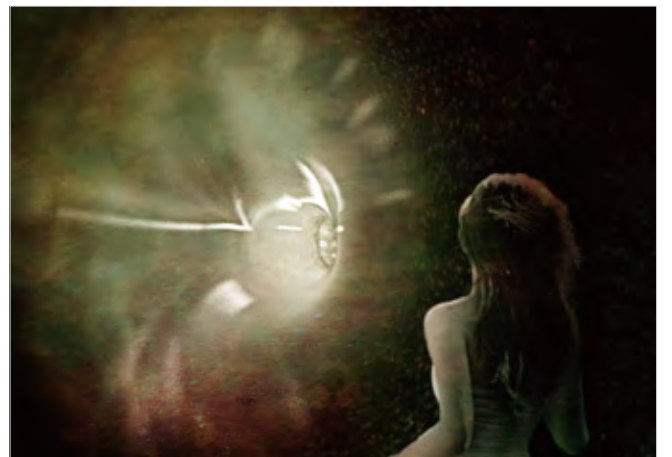
ミニシアターが生き残るためには、集まって協力することが必要である。ここで提案する映画館は、7つあるスクリーンをすべてテナントとして貸し出し、7つのミニシアターはそれぞれを別々の経営者が運営する。この建築はミニシアターが集まったシネマ・コンプレックス（複合映画館）となり、スクリーンより下には飲食店や洋服屋、雑貨屋などの店舗が入る。そして、この建築の立つ敷地は、かつて数多くのミニシアターが存在した札幌市中心部の一角である。この地にミニシアターを復活させる。



形態 - STOMACH -

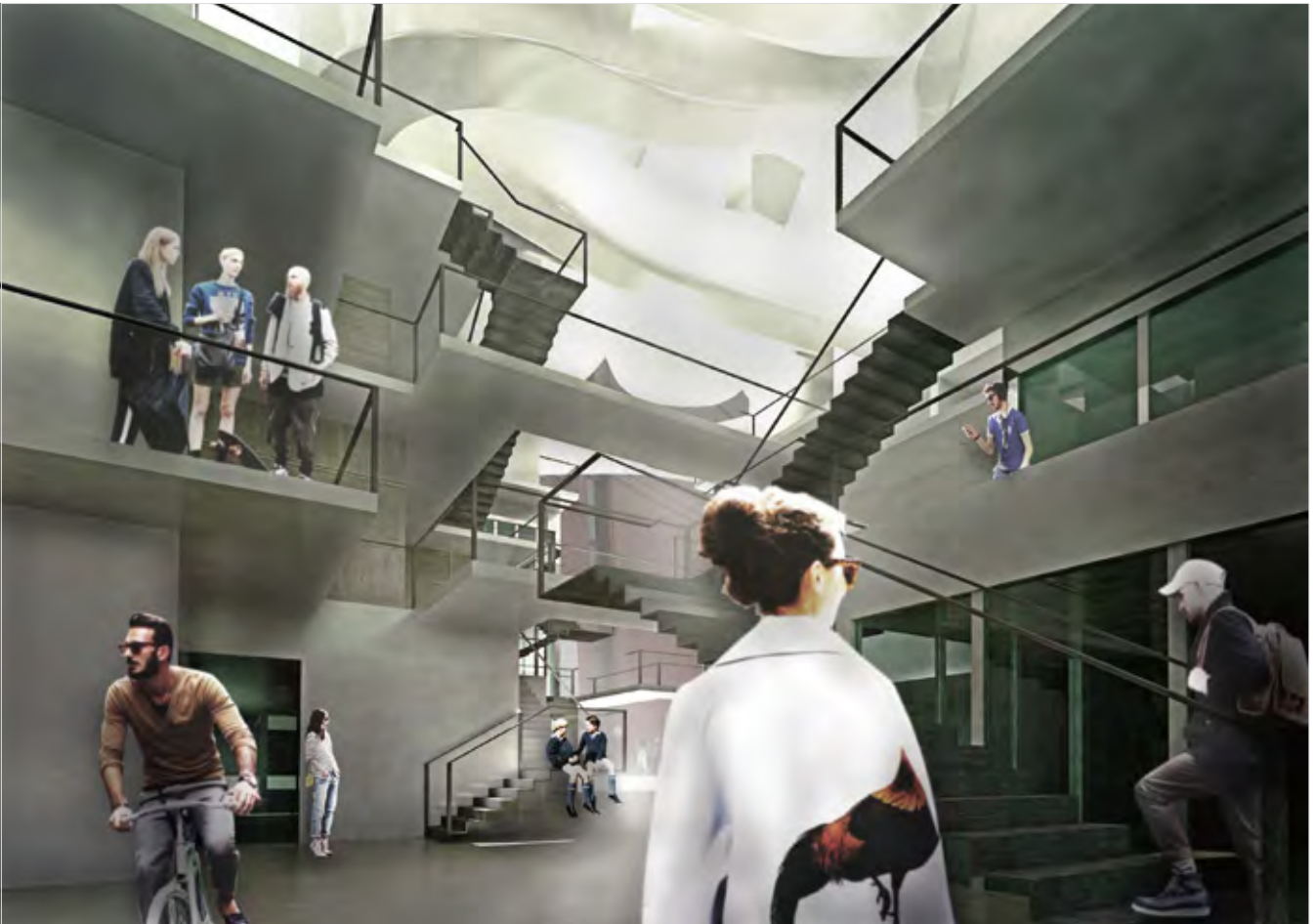
この臓器のような形態により、消化器官のように、映画を分解し、吸収することができる。
 異路地に入るようにスクリーンへの道が始まる。スクリーンへ向かう階段を登りながら徐々に都市の感覚が消えていく。開口・素材・有機的な形状によってそれら进行操作。騒がしい都市の音・光・高さ感覚・方向感覚。それらを徐々に失った先に現れるのはスクリーンの光と、響き渡る足音のみ。都市がフェードアウトし、映画がフェードインする。映画を視終った帰り道も、映画がフェードアウトして、都市がフェードインする。都市と映画を緩やかに繋げる形態である。











2017年度北海学園大学工学部建築学科 優秀賞作品
2018年度日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」出展作品



木漏れ火の棲み処

敷地（江別市若草町）



設計趣旨

都市上、北が大学で賑わった一角である。そこは近隣住民の憩い、学生が遊ぶ場として、緑豊かな空間を創り出す。しかしその敷地には、たばこ煙草が燃やして行っていた煙草工場跡の遺構がある。その遺構を壊すのではなく、その煙草工場跡を、人々の憩いの場として、新たな空間を創り出す。その遺構を壊すのではなく、その煙草工場跡を、人々の憩いの場として、新たな空間を創り出す。

配置計画



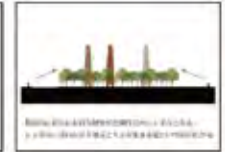
江別市と窯業



敷地周辺の過去と現在(煙突風景について)



全体構成要素



■ やきもののすみか

陶芸家の作業風景が日常となっていく市民を中心に、江別市がやきもの町として再認識されていき、周囲に再発信していく空間となる。

この空間では、展示・販売としての仕組は用意していない。あくまで、作家の創作空間であることで市外、道外からの作家が環境を変え創作に没頭することができる空間である。作家のものづくりに対する熱量が市民の目にやきつき関心へとつながっていく。

※右の表の通り、毎年開催されているやきもの市では、市外からの来場者が多い。よって、やきもの市の期間がはじまる前にこの空間で催すを行い、出席することは可能だと考える。

○ 二つのゾーンのの違いについて



陶芸家には地域の間に、人口の増加で熱の向わり方にむらがないものを好む人、静かで自然の音で静かになりむらがないことを考慮し、二つのゾーンを想定した。

○ 二つのゾーンをつなぐ広場について



二つの空間を結ぶ道のある広場空間である。十分な大きさを確保しているため、「やきもの森」の新たな広場として、再訪のたまら場として機能する。



■ みんなのすみか

火の器である焼窯を中心に、人の気配、温もりが溢れ出す広場である。定期的にキャンプファイヤーのように火が灯り、市民の新しいコミュニティ空間となる。高さを感じられる空間であり、幅広い世代の人々の新たな憩いの場として機能していく。



○ 敷地中央のポイドについて



庭の木々が覆っていた空間である。この空間に向け数種の樹を配置する。人工的な計画が明に流れ行きやすく、非現実的な自然に囲まれる。



○ ステップからなる広場について



他のスラブを3000×3000、6000×6000を標準とし、1500ピッチのスラブとしている。階段が自然にできていくので、歩きのよさを生み出している。このスラブでも周囲が変更される。

○ 断面図 C-c 1/100



■ もりのすみか

環境を変えるべく、心機一転でこの地にやきものをしに来た陶芸家や、やきもの町として認識されていきレジャー気分を訪れた人々を受け入れる江別唯一の宿泊空間である。

※図中の①は「土間」・②は「土間」・③は「土間」・④は「土間」・⑤は「土間」・⑥は「土間」・⑦は「土間」・⑧は「土間」・⑨は「土間」・⑩は「土間」・⑪は「土間」・⑫は「土間」・⑬は「土間」・⑭は「土間」・⑮は「土間」・⑯は「土間」・⑰は「土間」・⑱は「土間」・⑲は「土間」・⑳は「土間」・㉑は「土間」・㉒は「土間」・㉓は「土間」・㉔は「土間」・㉕は「土間」・㉖は「土間」・㉗は「土間」・㉘は「土間」・㉙は「土間」・㉚は「土間」・㉛は「土間」・㉜は「土間」・㉝は「土間」・㉞は「土間」・㉟は「土間」・㊱は「土間」・㊲は「土間」・㊳は「土間」・㊴は「土間」・㊵は「土間」・㊶は「土間」・㊷は「土間」・㊸は「土間」・㊹は「土間」・㊺は「土間」・㊻は「土間」・㊼は「土間」・㊽は「土間」・㊾は「土間」・㊿は「土間」

○ 宿泊空間の色と形態について



○ 森に開ける広場について



森の縁と隣り合わせだが、一歩足を踏めないと気づくことができない。宿泊空間の目的の式がスラブに覆っている。

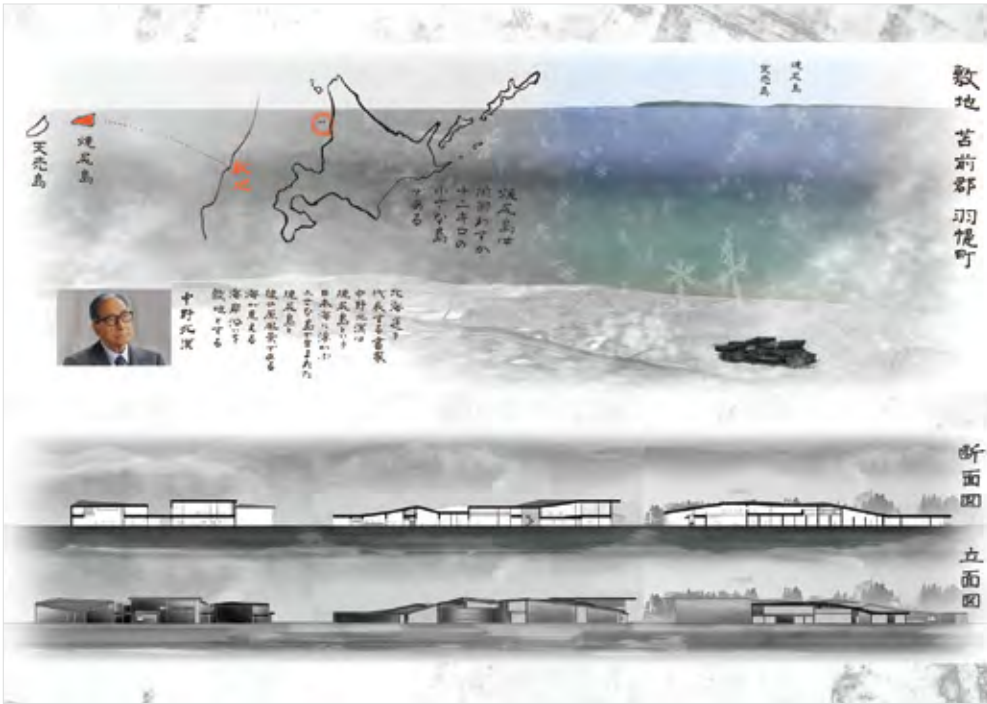








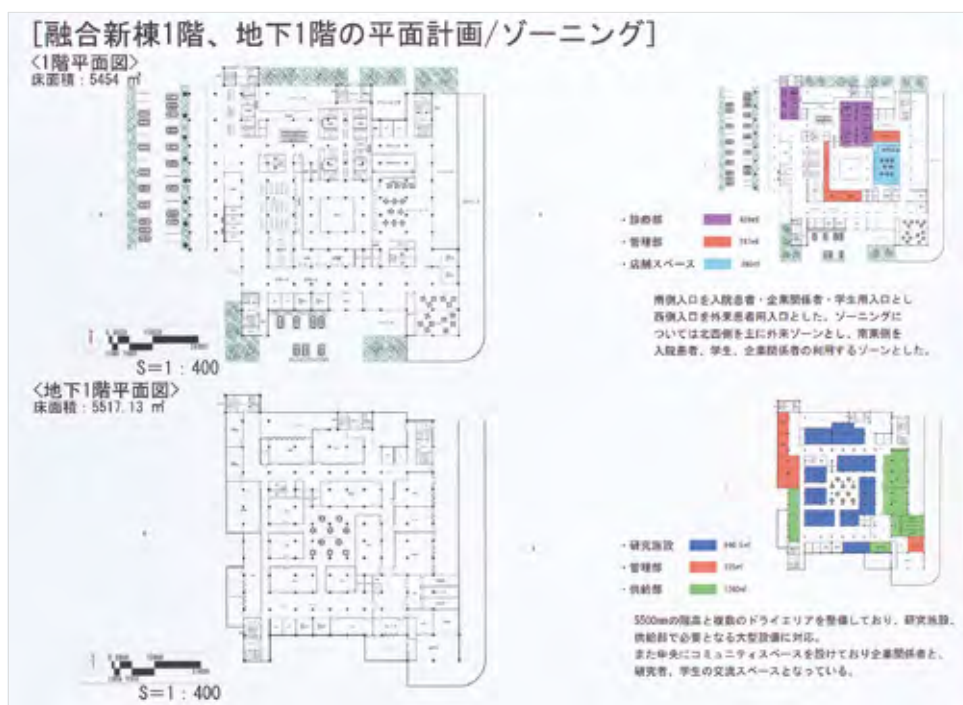






JIA北海道支部学生卒業設計コンクール2018 審査委員特別賞
北海道卒業設計合同講評会2018 鈴野賞









旧通りの空き店舗を対称に減築、増築し新たな小劇場を設計した。ひとつの小劇場を一個区画ごとの劇場と運営が可能なプログラムである。多くは劇場的で定着してしまう実用設備を外壁に付加し、演出時に演劇の雰囲気を取りこめることで、年々定着して行く。商業中心の再開発に異色だが、演劇の学びにだけ留まるものではないと打ち込んでいくべきように感じられた。小劇場の存在を確保することでその場所にしかない空気と再開発の入り混じる風景を定めた。



■演劇と空間
入居料を考慮する際、足りない場所を削ったり、いらぬ機能を撤廃するなど常に想像力を働かせている生活である。それは実際には存在しない空間を想像の中で生み出し、実の空間として認識する劇場的な可能性を秘めた一つの空間であると私は考える。中でも劇場の様々な部分を削ぎ、開放的空間を確保していく。演劇は人の想像力を強く感じる行為である。

■敷地
札幌市中央区南10条西7丁目 旧新通り市場
1122㎡から1150㎡で2棟の再開発として誕生。
一棟は4店舗以上が軒を連ねていたが2005年に解体され、現在は9店舗のみ営業。
・商店街という集合の集合という点が小劇場と似通っている
・私たちの仮設に思い込み、スケッチや人との会話で多くの小劇場と似ている
・土まは道路や歩道と商業施設を介するスペースがある
・歩道など公共空間が広くアクセスが良い
という点から選定。



■全体配置図
再開発で設置している店舗はないことから単純で、今のままにするように小劇場とそれらと連続して配置し、既存の歩道を繋ぎ合わせる。縦軸はエントランスから入り易くしてからのついで劇場で劇場の両側を繋ぎ合わせる。一帯も歩道帯の確保は必要かつくことなく、商業誘った連続性を確保。



■区画ごとの分佈図
劇場は小劇場を縦と横の両方。縦軸は歩道の歩道帯を繋ぎ合わせる。縦軸はエントランスから入り易くしてからのついで劇場で劇場の両側を繋ぎ合わせる。一帯も歩道帯の確保は必要かつくことなく、商業誘った連続性を確保。

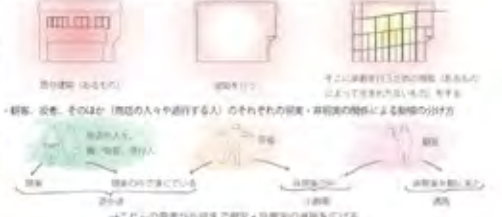


- 既存劇場
- リノベーションした劇場
- 新築劇場
- 劇場間の歩道帯を確保した歩道
- 歩道

■演劇が内容する「ない」と「ある」ものについて
劇場の人や観客、観客を思いながら、非現実的な演劇を演じる。演劇は「あるもの」と「ないもの」を演劇で表現する。演劇によって生まれる「あるもの」と「ないもの」を演劇で表現する。



■ダイアグラム
演劇によって生まれる「あるもの」と「ないもの」を演劇で表現する。



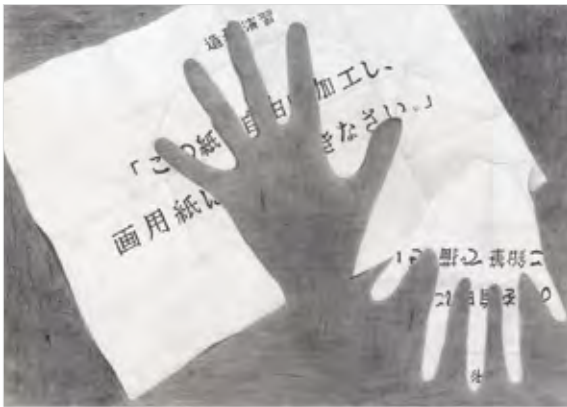


2017年度 北海学園大学 工学部建築学科 卒業設計提出者リスト
Graduation design presenter list '17

4314120	茂泉悠希斗	Yukito Shigeizumi	木漏れ火の棲み処
4314126	谷浦脩斗	Syuuto Taniura	はじまりとおわりのじかん
4314136	松尾彩菜	Ayana Matsuo	墨色 一色づきしみだす書
4314138	松本蒼志	Aoshi Matsumoto	駐輪ビル ー都市に根付く3つの駐輪施設ー
4314203	岩木智穂	Chiho Iwaki	風景と生きる
4314212	加藤弦生	Gensei Kato	STOMACH COMPLEX
4314225	佐原翔太	Shouta Sahara	北海道大学医学部キャンパスの将来計画と診療・研究・教育融合新棟の提案
4314233	納谷滉一	Koichi Naya	還り道
4314237	英まさみ	Masami Hanabusa	演じる建築 ー旧新通り市場に介入する小劇場群ー
4314241	三浦拓也	Takuya Miura	境界を繋ぐ駅

① 問題用紙をモチーフとした平面構成

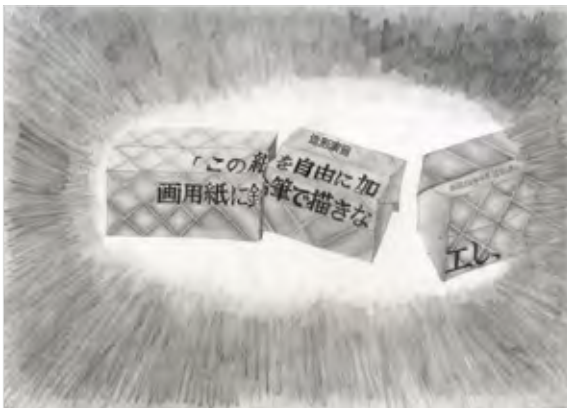
この紙を自由に加工し、画用紙に鉛筆で描きなさい。(素材は鉛筆)
紙のもつ性質と印刷された文字をうまく生かしながら表現すること。



① 岩谷 蓮
Ren Iwaya
4317107



① 片山菜月
Natsuki Katayama
4317206



① 新井田 彬
Akira Niida
4317124



① 高橋李華
Momoka Takahashi
4317215

② 季節をテーマとした自画像

季節をテーマに自画像を描きなさい。(素材は鉛筆)

自画像の配置は自由ですが、画面に今の季節を感じさせる要素を必ず入れること。

③ 光をテーマとした平面構成

光をテーマに自由に表現しなさい。(着彩)

安易に光を直接描こうとせず、光とはどういうものか?もう一度しっかり自然を観察しながら、あなたの狙いが表現できる場所で描くこと。(屋外制作)



② 田中陽菜子
Hinako Tanaka 4317121



③ 丸山莉奈
Rina Maruyama 4317226



② 麻生香実
Koumi Asou 4317102



③ 向井芽愛
Mei Mukai 4317228



② 徳田愛礼
Aaya Tokuda 4317218



③ 吉岡 葵
Aoi Yoshioka 4317136

④ コラージュを主体とした平面構成

与えられた写真の中から2要素程度とりあげ、それらを主役とした画面を構成しなさい。(素材は自由)
コラージュしたものが画面の中で自然に存在するよう空間を描くこと。



④ 長谷川千紗
Chisa Hasegawa
4317125



④ 前田優人
Yuuto Maeda
4317224



④ 田中裕二郎
Yuujirou Tanaka
4317122



④ 吉田稀一
Kiichi Yoshida
4317137

⑤ 身の回りのモノをモチーフとした細密画 細密描写にふさわしいモチーフをあなたの身の回りから探し出し、平面構成しなさい。(着彩)
 全体のバランスというより、普段は面倒臭くて省略したくなるような細部に視点を向けること。

⑥ 建築と私をテーマとした立体構成 与えられた素材(スチレンボード、樹脂粘土)を最大限に生かし「建築と私」をテーマに自由に表現しなさい。(素材は自由)
 但し、作品サイズは28cm×21cm×5cmの範囲内とする。



⑤ 後藤悠也
 Yuuya Gotou
 4317208



⑥ 平田奈羅
 Nara Hirata
 4317222



⑤ 原 真仲
 Manaka Hara
 4317127



⑥ 岩佐香菜子
 Kanako Iwasa
 4317106



⑤ 高橋茉佑
 Mayu Takahashi
 4317120



⑥ 濱野泰寿良
 Takayo Hamano
 4317126

個人・小グループ課題／

橋を架ける

2年生の1学期から山鼻キャンパスでの生活がはじまる。建築学科において最初に取り組む空間デザインの演習である。空間には美しさと強さの両立が求められる。演習の冒頭では、一枚の紙でもその特性の正しい理解を通じ相当の重さを支えられる橋が実現することを、試行錯誤をしながらの実作を経て実感する。限られた材料を用いて、材料の特性と構法の特徴を理解したうえで、それを自在に活かすことは、空間を創造する力の裾野を広げる。初期段階では各個人が制作検討を進める。その後、自らの案を携えて3～4名の小グループによる協議・制作へと移行する。完成後には、作品の美しさを互いに評価したのち、簡易な強度試験を実施する。

強度トップ3の橋 (左から1位、2位、3位)



4316115 加藤 僚
4316142 矢野航弥
4316211 久須美遥平
4316232 朴木敬亮

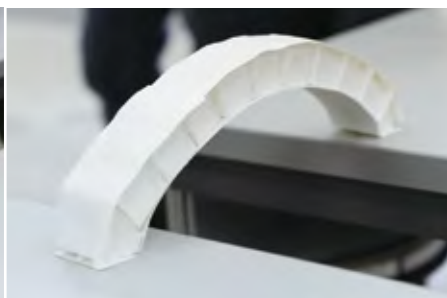


4316108 上田真史
4316134 土肥将大
4316215 佐藤拓未



4316106 市呂弥生也
4316127 鈴木俊也
4316214 小林祐斗
4316246 吉川明里

そのほかの橋



演習の風景



つよい橋の検討



ワークショップ



検討経過発表会



デザイン方針発表会

グループ課題／

光を…あじわう

演習の後半では、個人・小グループ課題を通じて得た創造経験を踏まえて6～8名のグループ制作に移行する。作品のテーマ設定、アイデア出し、素材の探索、工程計画の設定、1：10模型による検討などを経て、実寸作品の制作を目指す。グループ課題の目的は次の5点である。

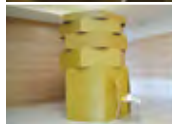
- ①大通公園西10丁目の芝生広場を想定敷地とし光の特性と人の感覚との関係を考慮した空間を創造する。
- ②テーマと空間との完全なる合致を探求する。
- ③具体的な用途への応答に縛られすぎず空間性を意識する。
- ④コミュニケーション能力、責任ある作業分担能力、スケジュール管理能力を身につける。
- ⑤イメージ（想像）とリアル（現実）の間に存在する様々な要素を仲間と共に発見・体験する。

特色のある作品



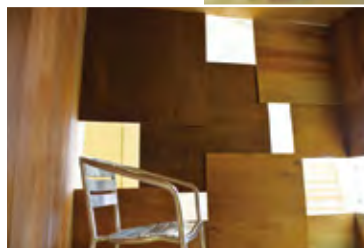
Hexagon

- 4316101 青木祥太
- 4316110 内海綾太
- 4316133 富永琢斗
- 4316138 藤原大也
- 4316203 太秦由郁子
- 4316225 中里瑞巳
- 4316226 中田悠輔
- 4316237 松野晃大



Kojima Tunnel

- 4316116 加納誠也
- 4316118 菊地亮汰
- 4316122 五嶋 楓
- 4316146 渡辺 諒
- 4316207 上山仁也
- 4316208 川勝祐慶
- 4316238 三浦光雅
- 4315201 阿部大輔



ぼくのべんち

- 4316104 井坂成吾
- 4316114 風間雄太
- 4316124 佐藤菜由
- 4316132 戸田俊也
- 4315140 船木駿次
- 4316210 菊池拓実
- 4316222 千葉貞治
- 4316236 増田 歩

光窓亭

- 4316112 太田百香
- 4316121 小林駿介
- 4316123 塚 大樹
- 4316145 渡邊憲成
- 4316202 井沼優斗
- 4316205 大里拓人
- 4316229 樋口菜里咲

そのほかの作品



グループ課題 実寸制作



制作風景

発表風景

カフェ・テラス

工学部校地の一角に建つ学生・教職員のための「たまり場（カフェテラス）」の設計。敷地は東西12m×南北15m。床面積は50㎡程度まで。用途は喫茶を主とするが、作品展示コーナー、ミーティングルームなど、各自が必要と考えるスペースも自由に盛り込んでよい。

渡邊憲成
Kensei Watanabe

4316145



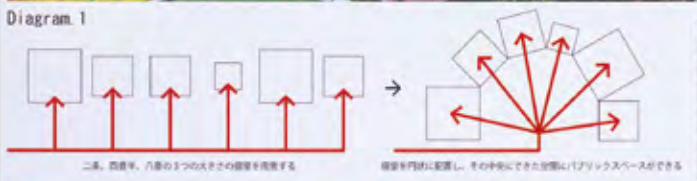



Diagram 1




二重、四重平、八角の3つの大きさの部屋を配置する
 個室を円形に配置し、その中央にできた空間にパブリックスペースができる

二重（1〜2人）、四重平（3〜4人）、八角（5〜6人）とまったようにならない人数に応じた個室を配置することにより、集り場となる空間が生まれる。それぞれの個室を円形に配置してできたパブリック空間。ここが今回のコンセプトである。自分の集り場を同じように集めた人がカフェテラスを構成して各個室へと移動する動線を利用して人々をこの空間に集める。

換り所の確保
人々を誘う動線

Diagram 2

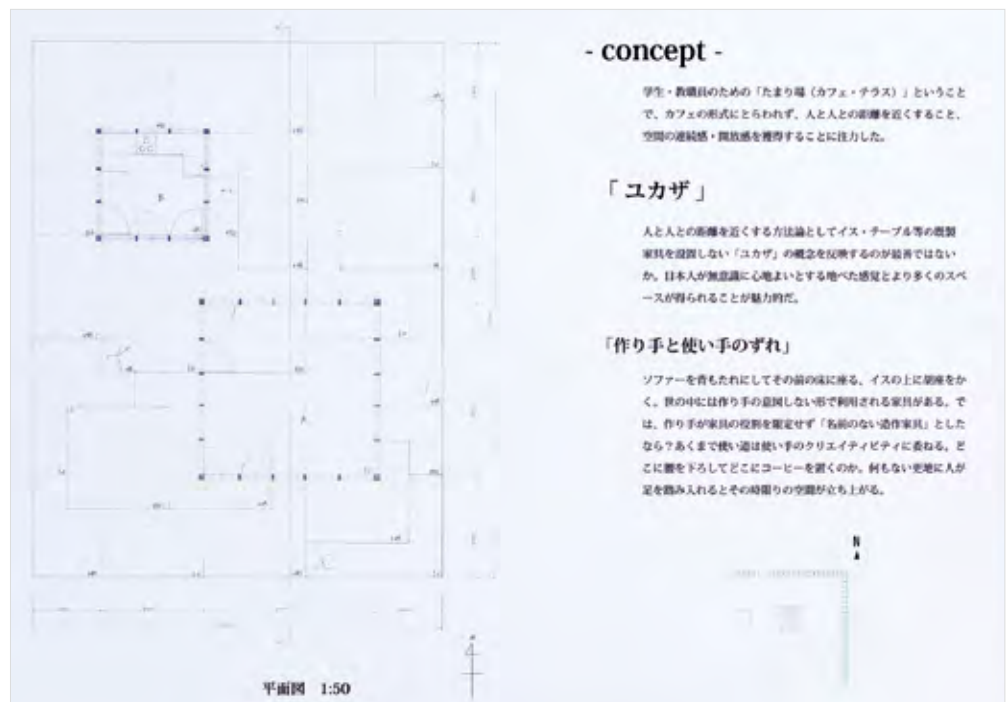


敷地の中心から外側の緑地までの距離を短くする
 見えたい（見せたくない）階への視線を利用し動線を誘う
 開口の高低に依存するので個室に多様性が生まれる

カフェテラスとなる空間の中心から動線にある美しい建物の端点まで、各層・平面的に見ている。その動線に合わせて集客が誘われるようにゾーニングや開口を誘う。
 この建物により周辺が集まってきた人々が足を止める事により、カフェテラスはますます賑へと発展し、様々な空間はこれまでにないコミュニティを形成する。

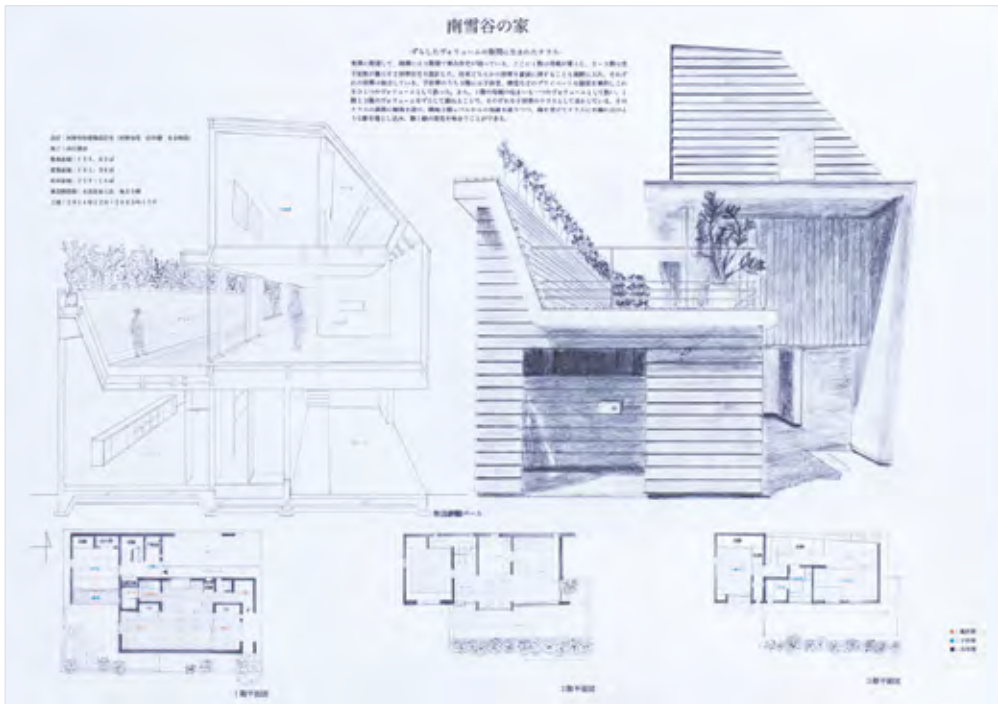
環境の再認識
コミュニティの拡大



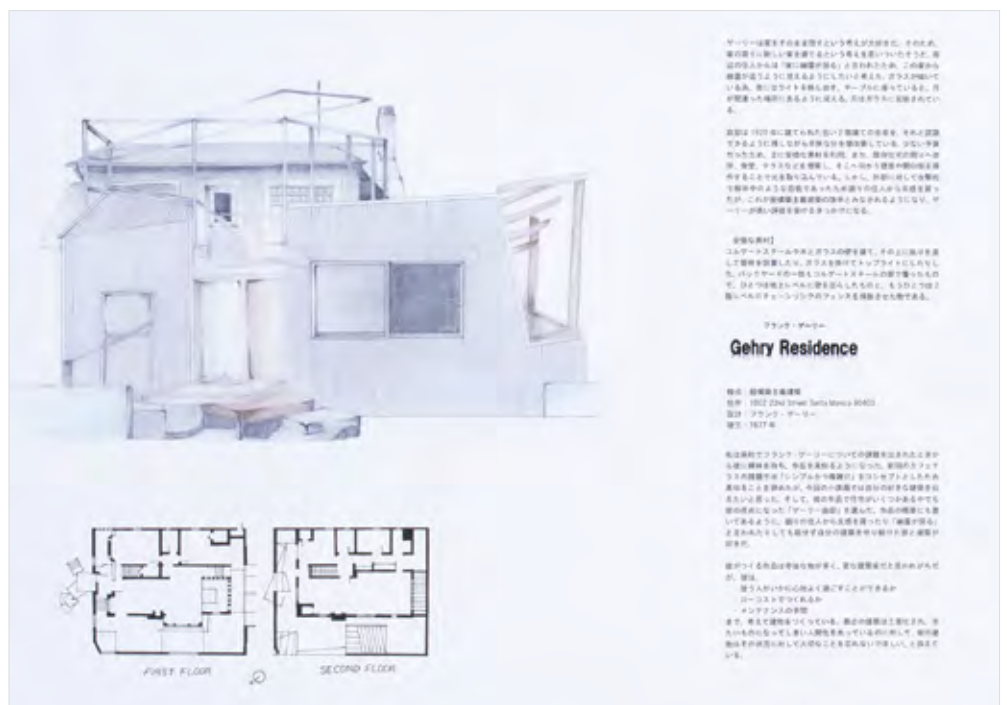


小課題「住宅をさがそう」

デザインを学ぶ効果的な方法の一つは、優れた作品をたくさん見ること、そしてそれを手で描いてみることです。この課題はそのためのトレーニングであるとともに、次の課題「住宅」のための事例研究も兼ねています。



富永琢斗
Takuto Tominaga
4316133

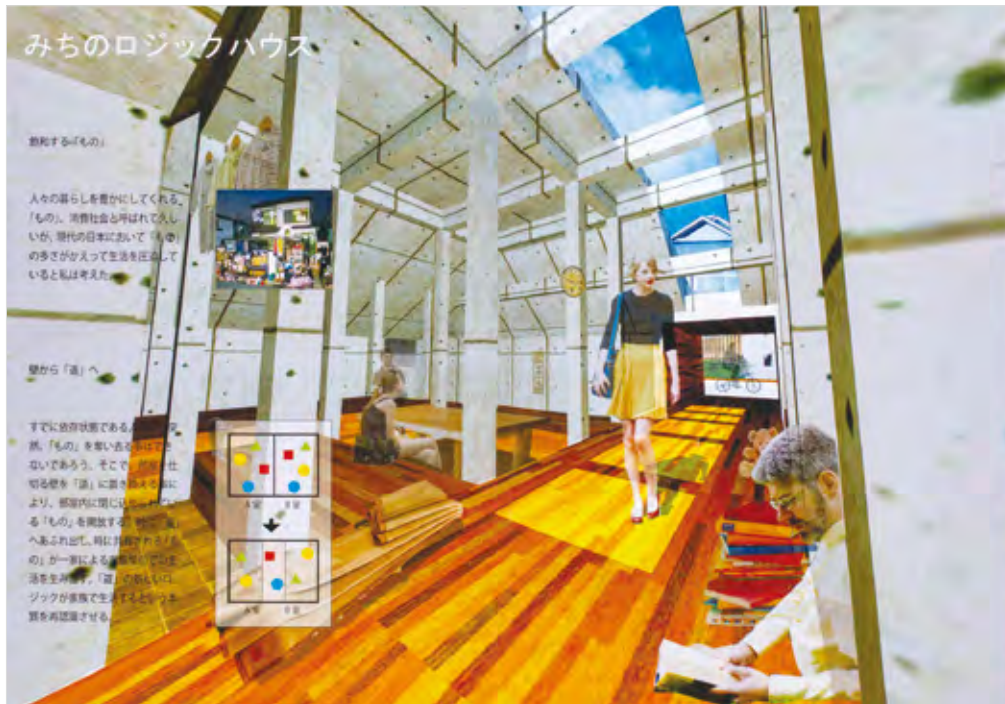


内田春希
Haruki Uchida
4316204

住宅

現代人の生活にふさわしい魅力ある住まいの設計。敷地は東西14m×南北18m。北に車道、南にプレイロットと遊歩道が隣接。周囲は閑静な住宅地。家族構成は夫婦と子供二人（10代の長男、長女）。

渡邊憲成 4316145
Kensei Watanabe



住宅

三浦光雅 Mitsumasa Miura 4316238



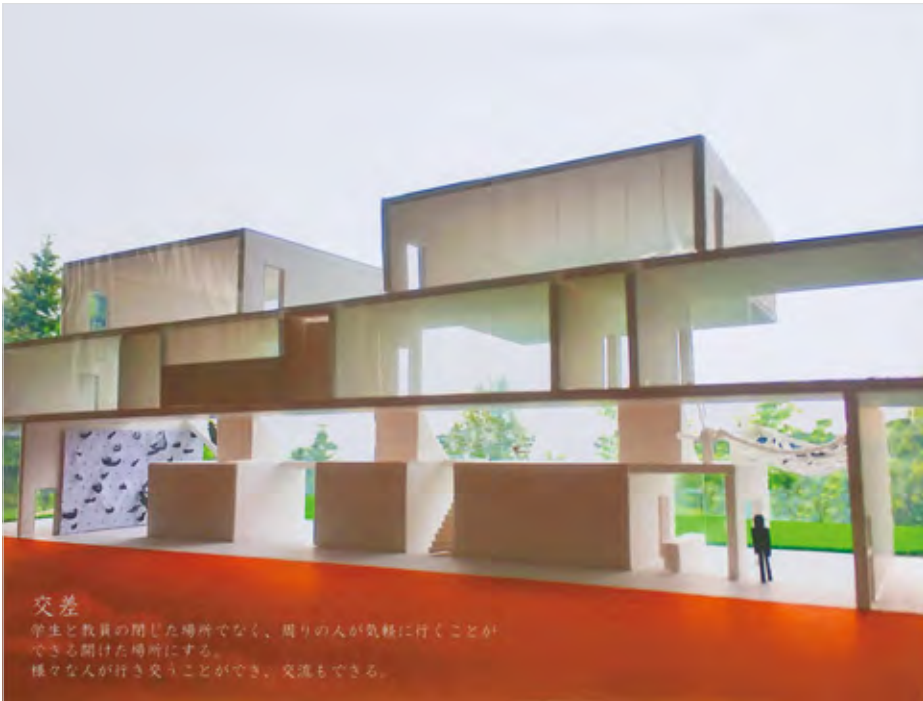
デザイン・スクール

これは、趣味や日常生活、あるいは将来の仕事のためにデザインを学ぶための建築です。(ファッション、インテリアの2コース。2年制)。デザインの勉強にふさわしい雰囲気のキャンパスと学校生活を楽しめるような場を留意してほしい。設計にあたっては次のことに留意してほしい。 ①授業ばかりでなく、課外での学習・休憩など、学生の活動・動きを考えた建築の提案。(内部空間のほか、校庭など屋外の場のあり方、内部とのつながり方など) ②校舎全体が円滑に機能するような各空間の配置の検討。(教室群、演習室、教員室、図書室、管理用諸室、休憩・移動空間、屋外の居場所など、相互の位置関係) ③敷地周辺の環境との関係や住民に開かれた建築の提案など。

本瀬祥子 4315145
shoko Motose



中川原佳奈 4315231
Kana Nakagawara



小課題「建築作品をさがそう」

これは、趣味や日常生活、あるいは将来の仕事のためにデザインを学ぶための建築です。(ファッション、インテリアの2コース。2年制)。デザインの勉強にふさわしい雰囲気のカンパスと学校生活を楽しめるような場を留意してほしい。設計にあたっては次のことに留意してほしい。①授業ばかりでなく、課外での学習・休憩など、学生の活動・動きを考えた建築の提案。(内部空間のほか、校庭など屋外の場のあり方、内部とのつながり方など)②校舎全体が円滑に機能するような各空間の配置の検討。(教室群、演習室、教員室、図書室、管理用諸室、休憩・移動空間、屋外の居場所など、相互の位置関係)③敷地周辺の環境との関係や住民に開かれた建築の提案など。



岡田 彩
Aya Okada
4315107



高見堂風花
Fuuka Takamido
4315227

テナント・ビル

床を多層化したビルは都心における建築の典型です。多層化に伴い構造、設備、交通空間などが立体化し、近隣のビルや街並とも密接した関係におかれます。それらは制約条件といえますが、同時に都市建築ならではの特徴でもあります。都心に働く人々や都心を楽しむ人々にとってどのような建築が期待されるか、また街並や敷地条件に対してどのような建築がふさわしいか、テナント・ビルの設計を通じて提案してほしい。

久保ふくの
Fukuno Kubo

4315114

Concept

札幌大通り。そこに今足りないものはなんだろう。そう考えたとき、私は真っ先に子どもたちが悠々とはしゃぎ、楽しむ遊び場を思い浮かべた。札幌という場所は、子どもたちが遊ぶ施設が分散されているように感じる。そこで私はこのテナントビルを子どもたちのための施設として設計した。広く明るいこの場で子どもたちは思い思いに走り回り、仕事が終わった母親は真っすぐここへ来て、そしてともに帰っていく。そんな家族の在り方が大通りで生まれるのである。

建物を構成するそれぞれの箱は役割を担いそれぞれの機能を果たす。
上記の図はあくまでイメージであり、実際の設計とは異なる場合があります。また、この図はあくまでイメージであり、実際の設計とは異なる場合があります。

Plan Level 9 1/200

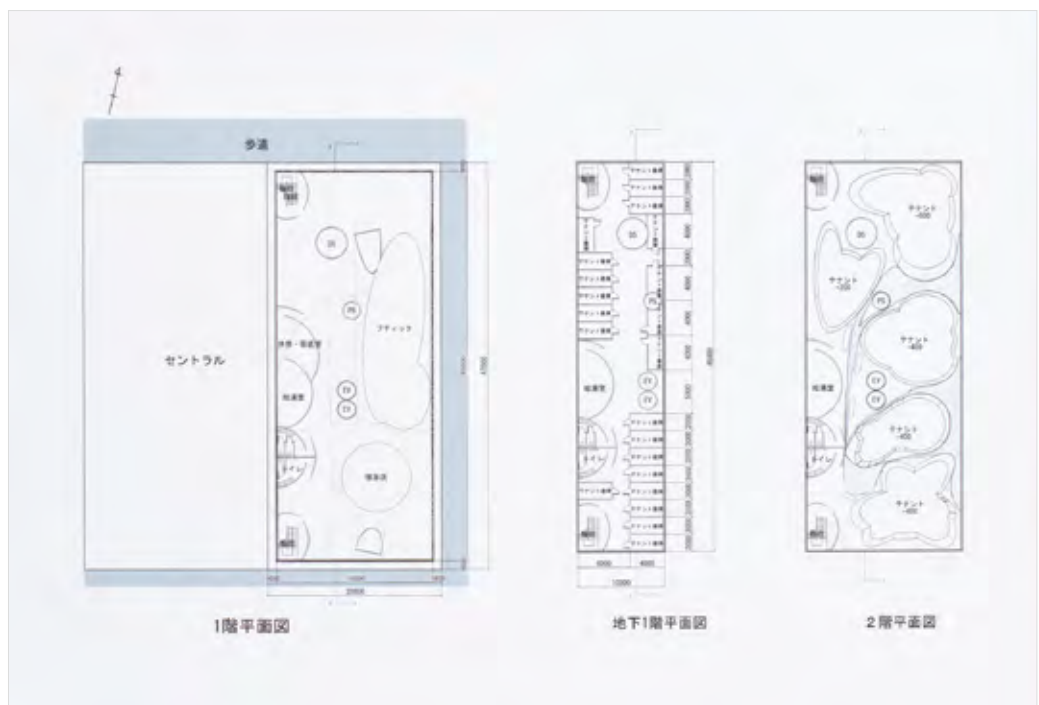
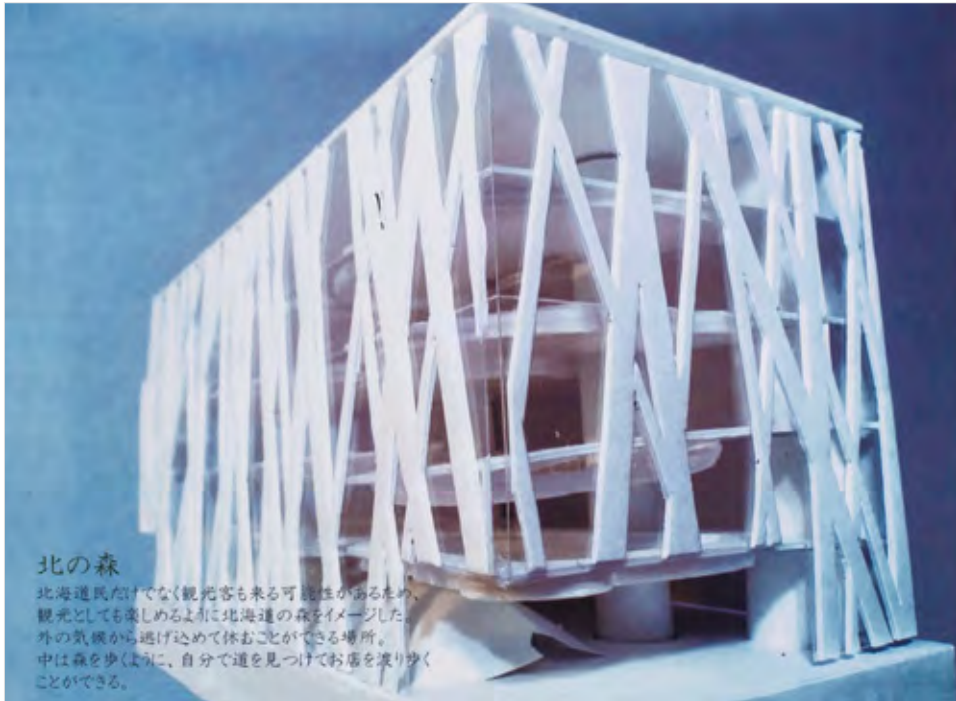
Plan Level 10 1/200

South Elevation 1/200

North Elevation 1/200

East Elevation 1/200

中川原佳奈 4315231
Kana Nakagawara

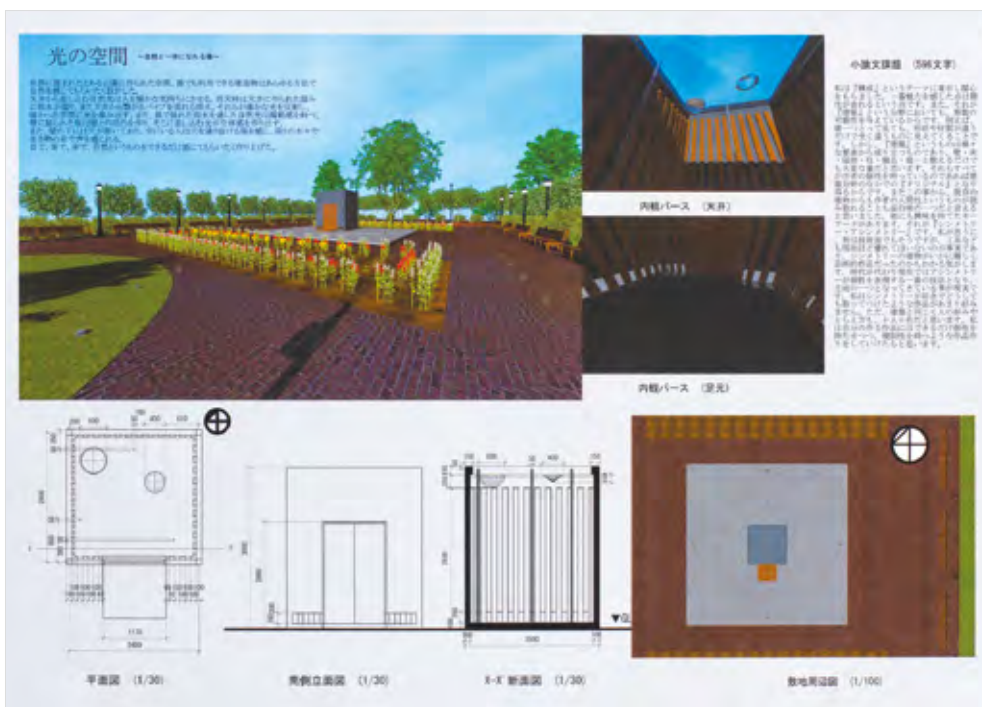


光の空間

建築空間の豊かさは、面積や容積のような数量を基準に判断できるものではありません。人間がその空間を体験したときに、何らかの印象として知覚するものです。そのような印象を与える要素としては、例えば、ヴォイドの輪郭、素材や色、多様な動線、外部との関係、そして光の変化などがあります。これらによる空間効果は、広く大きい空間よりも、狭く小さい空間から、より実感できます。なぜならば、限定される不自由さが、独創的なアイデアを生むからです。今回の課題は、限定された20m²の空間の中に、「光の空間」をデザインします。



籠り光
小野陽平
Yohei Ono
4315110



光の空間
諏訪匡紀
Masaki Suwa
4315121

アート+建築=X

アートという言葉からは、芸術や美術とは異なる印象が伝わってきます。アートは、芸術や美術と言葉の意味することは同じとは言え、あまり堅苦しい印象はなく、比較的人々にとって身近な存在になっています。現在の都市空間の中には、表現手段は多様なながらもアートは満ち溢れています。このようなアートを建築と組み合わせるとどうなるでしょうか。既存のビルディングタイプからは、美術館が想像させられます。しかし、既存の美術館は、展示された芸術や美術作品を「見る」という行為が中心になり、展示空間では、学芸員などの管理者側の視線によって、作品との間に距離感を生じさせています。今回の課題では、芸術や美術に限定せず、人々にとって身近な存在であるアートと建築の関係性を模索しながら、今までの美術館とは異なる建築を設計することを目的としています。

小野陽平
Yohei Ono

4315110



板東千尋
Chihiro Bando

4315132



巡美術館

MEGURI MUSEUM

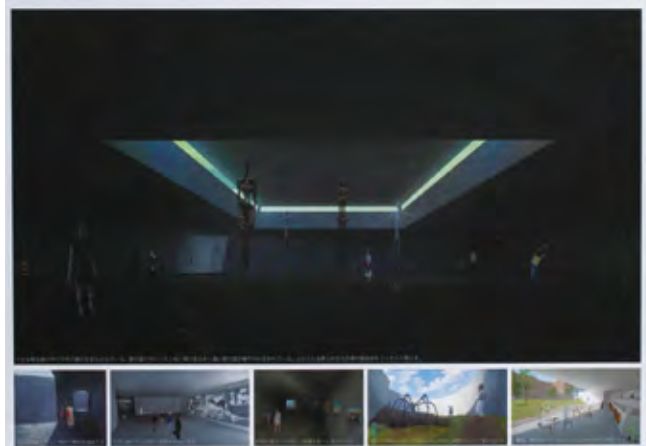
美術館にとってシーケンスはとても重要なものである。空間の印象によって起こる場面転換を連続的に体験することによってその建物、作品、自分自身に入り込ませより深い作品との対話を促す。近年、街中においてもパブリックアートなどが点在しており、アート作品に触れる機会が多く、アート作品が人々の日常の一部となっている。アートとの関係性が多様化していく中で、また札幌の中心部という都会の喧騒において、作品との対話が出れる場所があることはとても意味のあることであると考える。今回は様々なシーケンスの中で作品との対話、自分自身との対話を生む非日常的な美術館を提案する。



▲パブリックな場所におけるアート



▲プライベートな場所におけるアート



電車通りの「みんなの家」

複数の世帯が集まって住む共同住宅は、「いえ」と「まち」の中間に位置しています。したがって、共同住宅は、個人の住む快適性を追求することも大切ですが、「まち」との関わりを意識することも大切になってきます。今回の課題、電車通りの「みんなのいえ」は、このような観点から、「いえ」と「いえ」、「いえ」と「まち」のバッファゾーンを考えることを目的としています。札幌の都心に住むことを前提にしながら、個人の快適な空間だけではなく互いの関係を意識できる空間として、集まって生活することができる『みんなのいえ』を提案してください。

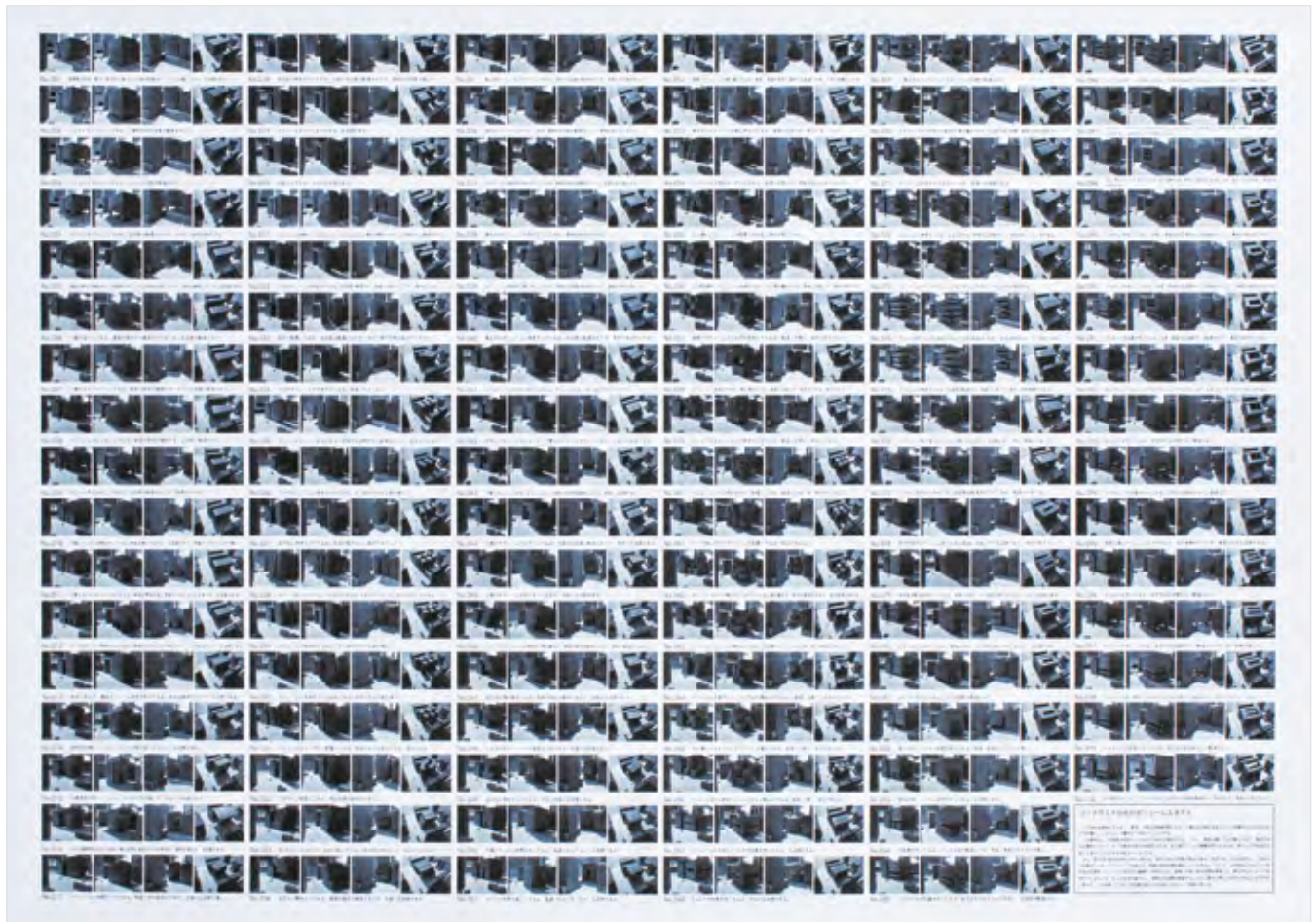
小野陽平
Yohei Ono

4315110



高見堂風花
Fuuka Takamido

4315227



創成川公園前のトショカン

既存の図書館は、主に利用者に収集した資料や情報を最大限に提供し、調査研究に役立てる社会教育施設として機能しています。しかし、普段利用する上では、利用者の書斎であったり、勉強部屋のような場所であったりと、日常的な空間の延長として存在しているのが実状だと思います。しかし、既存の図書館をかえりみると、いかにも「公共建築的」で、人々が心地よい場所として利用できる本来の建築空間としての視点が大きく欠けています。その居心地の悪さが人々のためのコミュニティスペースとしての機能性を満足させていない理由にもつながっています。本来の公共建築には、もっと人々の交流の拠点となるような、生きた建築が求められているはずで、今回の課題で、札幌の都心に、図書館の機能を中心とした、人々のための、あるいは個人のための「新たなトショカン」を考えてみます。

松本蒼志 4314138
Aoshi Matsumoto



SERENDIPITY



街の中心にある開放的な空間から、人々の集いを促すことのできる場を創る。
この図書館は、本来の使い方がない場也可以是場所である。
人が場所を巡り、それと関わり合う場所を築く。
そんな流動的な図書館を構築する。

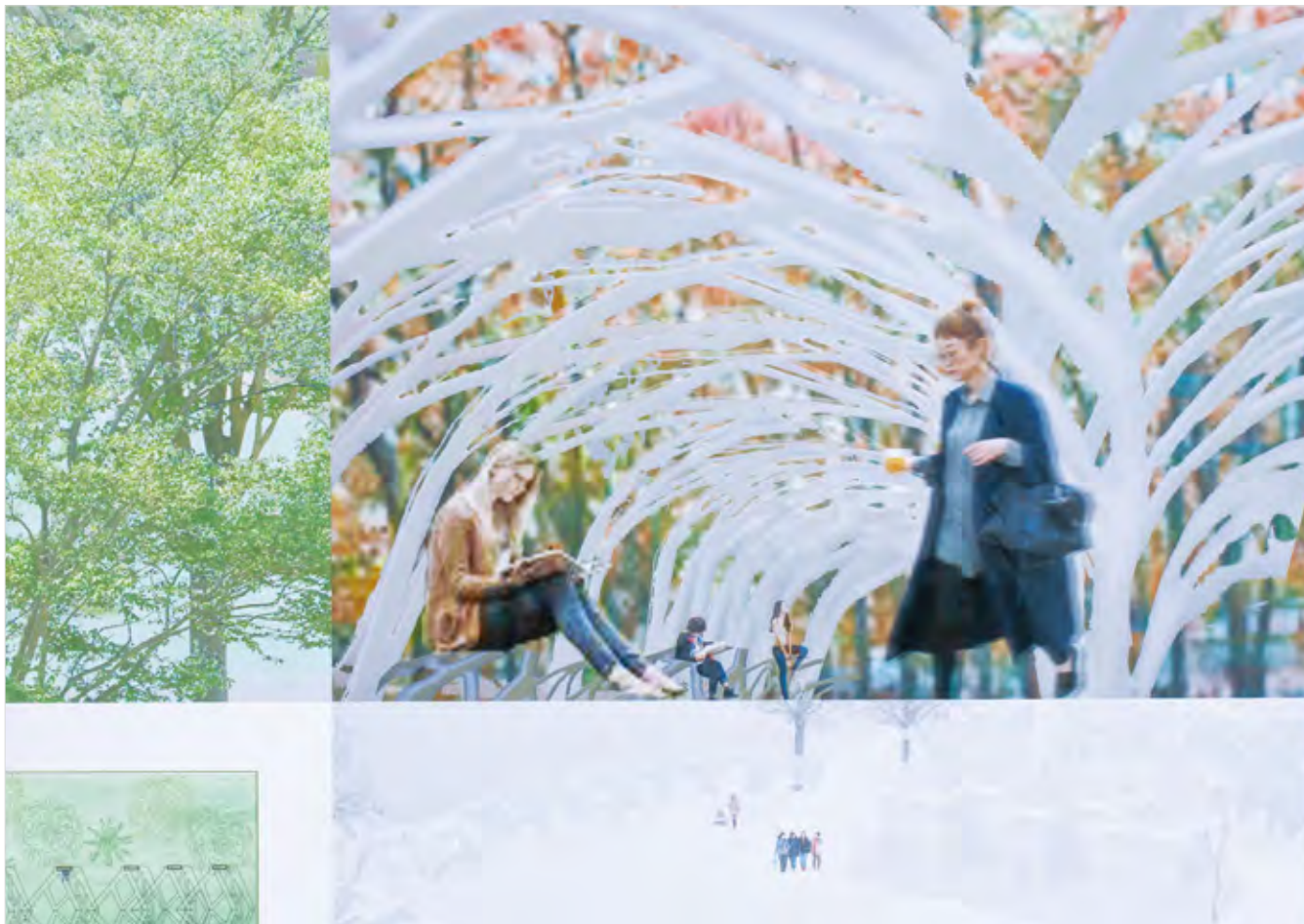


光と邂逅する建築

建築にとって、光は必要不可欠です。人体にたとえると血液のようなものです。建築形態に表情を作り出すために、内部空間を活かすための光は極めて重要な存在です。光は、建築に豊かさを生み出し、生活に潤いを与えます。今回の課題は、公園の中に「光と邂逅する建築」を設計します。ここでは、休息の空間、祈りの空間、遊びの空間、出会いの空間など人々の生活に安らぎを与えるための空間を用意します。空気のような存在である光をあらためて見つめなおすことによって、建築空間の存在意義を再確認します。

松尾彩菜
Ayana Matsuo

4314136



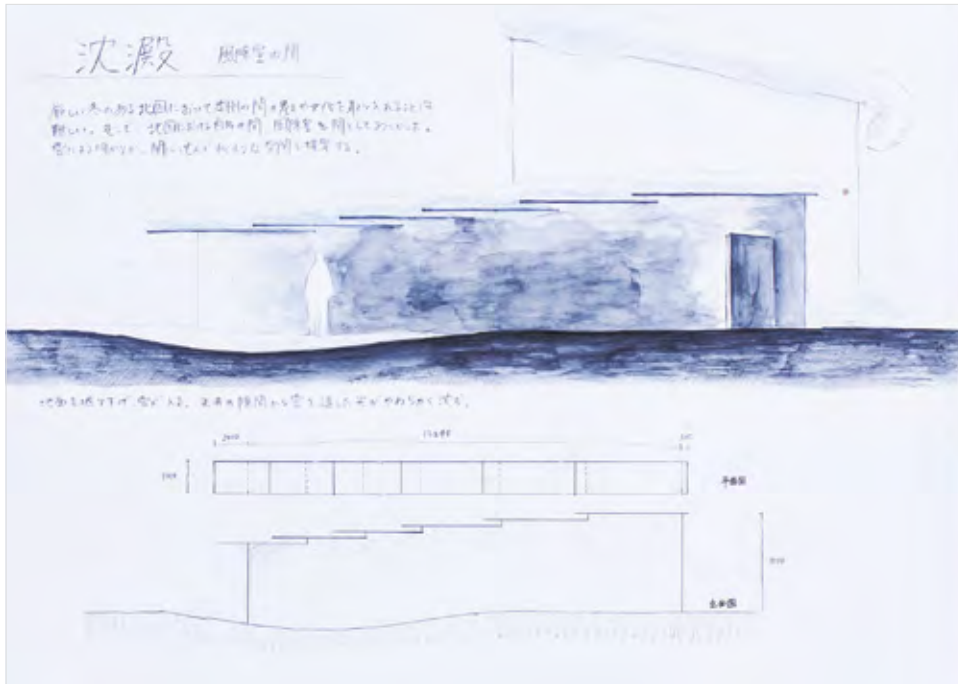
岩木智穂
Chiho Iwaki

4314203



第1位

4年生 英まさみ
Masami Hanabusa
4314237



ポスター



テ ー マ 【テーマ】 13.24㎡の陰翳礼讃

【敷 地】 自由

【提出物】 A2サイズゼント紙1枚

(平面図+設計意図を説明する断面・立面や内外観スケッチなど)

※パソコンを使用した作品・プリンターによる印刷物は認めません。

開 催 日 2017年10月7日(土)

9:00 課題配布・設計開始

14:00 課題提出

14:00~15:30 プレゼンテーション

16:00~表彰

17:30~懇親会

※遅れての参加も認めますが、設計時間が短くなります。

賞 品 一 等 1点 ニーチェアエックス ロッキング

二 等 1点 リキロック

三 等 1点 ダストボックス・トラッシュ

学年賞 2点 帝国ホテルマグカップ

名 称 第10回北海学園大学工学部建築学科学内デザインコンペ
通称「ガクナイコンペ vol.10 ー即日設計ー」

参加資格 北海学園大学・大学院に所属する学生であること。
学部、学科は問いません。申し込みは必要ありませんので
参加希望者は直接会場へお越し下さい。

当日持参 筆記用具 (シャープペン・エンピツ・色鉛筆・消しゴム・三角スケール・定規など)

するもの ※エンピツ1本からでも参加できます。

※会場にてA2 サイズゼント紙 (1人数枚程度)、カッターマットは提供します。

審 査 【委員長】

高木貴間 高木貴間建築設計事務所 98年卒業

【委員】

大坂美保子 アーキラボ・ティアンドエム 98年卒業

杉山友和 ARCHIVE 99年卒業

神谷幸治 空間工作所 01年卒業

米田英美 ヨネタエミ建築スタジオ 01年卒業

目黒祥久 株式会社横河建築設計事務所 02年卒業

中川幸之助 中川幸之助建築デザイン 09年卒業

注意事項 審査は A2 ケント紙 1 枚の内容、及びプレゼンテーションの内容に

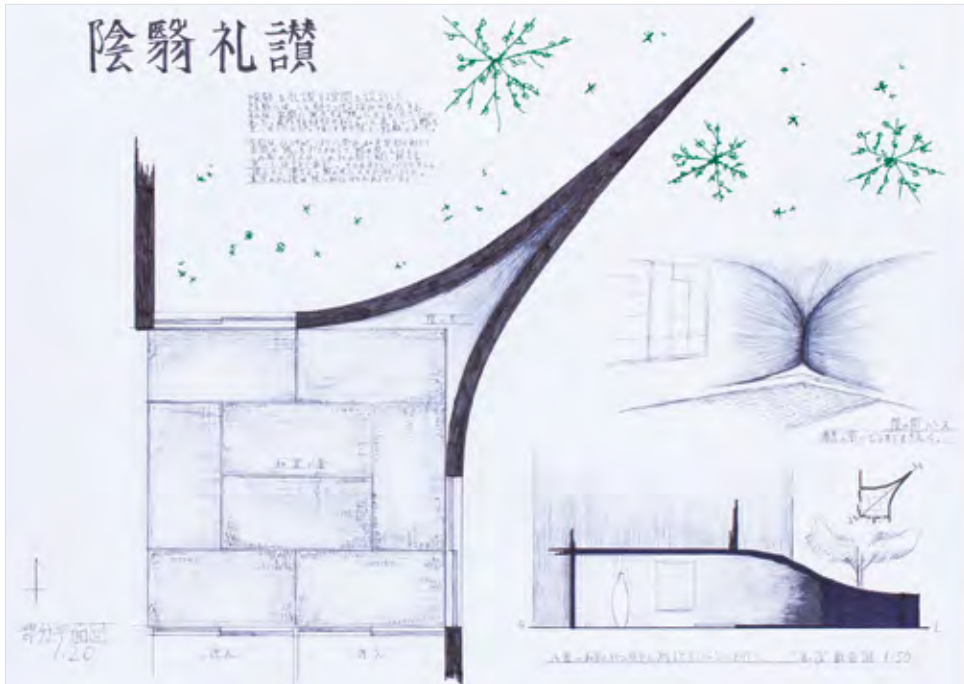
よります。模型は評価の対象になりません。

休憩や敷地リサーチを含め、製図室外への出入りは自由とします。

規定以外の事項に関しては応募者の自由裁量とします。

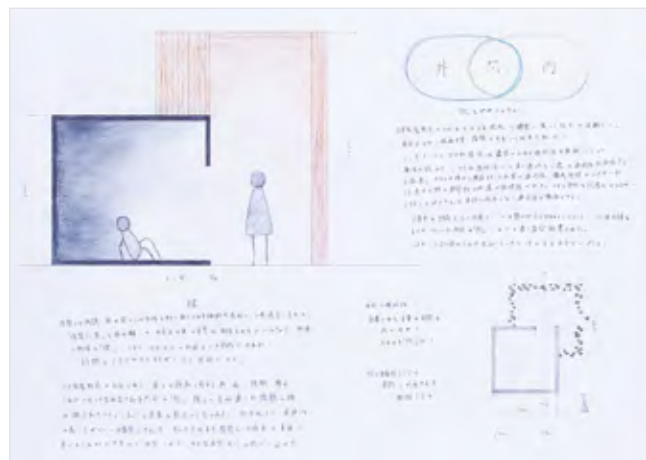
第2位

大学院2年生 河中宗一郎
Syuichiro Kawanaka
6316105



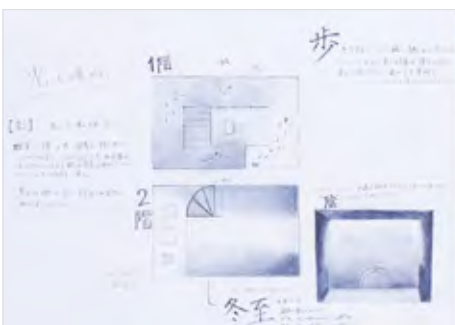
第3位

2年生 三浦光雅
Mitsumasa Miura
4316238



学年賞
1年生

1年生 酒井唯衣
Yui Sakai
4317115



学年賞
3年生

3年生 板東千尋
Chihiro Bando
4315132





2017年度札幌市主催
札幌市主催 オリンピック・パラリンピックを考える学生アイデアコンテスト
テーマ「つながり」

～みんなが参加する北海道・札幌冬季オリンピック・パラリンピック～
優秀賞

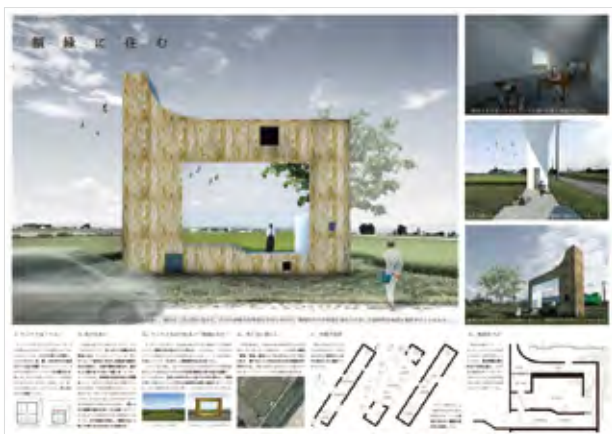
修士2年生	河中宗一朗	Syuichiro Kawanaka	6316105
修士2年生	吉田昂平	Kouhei Yoshida	6316106
4年生	茂泉悠希斗	Yukito Shigeizumi	4314120
4年生	谷浦脩斗	Shuuto Taniura	4314126
4年生	松尾彩菜	Ayana Matsuo	4314136
4年生	松本蒼志	Aoshi Matsumoto	4314138
4年生	岩木智穂	Chiho Iwaki	4314203
4年生	加藤弦生	Gensei Kato	4314212
4年生	納谷滉一	Koichi Naya	4314233
4年生	英まさみ	Masami Hanabusa	4314237
4年生	三浦拓也	Takuya Miura	4314241



「第8回テスクチャレンジ設計コンペ」最優秀賞
 修士2年生 河中宗一郎 Syuichiro Kawanaka 6316105



「第1回フェーズフリー住宅デザインコンペ」松崎元賞
 修士2年生 河中宗一郎 Syuichiro Kawanaka 6316105



北海道建築士事務所協会主催
 「第42回北の住まい住宅設計コンペ」最優秀賞
 修士2年生 河中宗一郎 Syuichiro Kawanaka 6316105



北海道建築士事務所協会主催
 「第42回北の住まい住宅設計コンペ」ベスト10入賞
 2年生 渡邊憲成 Kensei Watanabe 4316145

地域の財産としての空き家活用
沼田町セルフリノベーション/
空き家を移住体験住宅へ

北空知に位置する小さなまち沼田町を舞台に、大きな社会問題のひとつとなっている空き家を、学年を超えて学生らが自らの手でリノベーションする取り組みである。

沼田町を訪れてまちの人たちの声を聞き、沼田町の魅力を調べたうえで、人口減少を食い止める一助とすべく、空き家のリノベーションを実施した。

地元の工務店や木材店、内装業など多くの現場技術者からアドバイスを受けながら、初めて手にする様々な道具に戸惑いつつ、自らのデザインした空間を実現した。リノベーションでの現場経験を通じ、講義で得た情報が自らの真の知識として身につく貴重な機会である。空間の創造は、クリエイティビティだけでなく、素材の種類・特性の理解と現場の人・技術があってこそ成立する現実を、身を以て実感する。



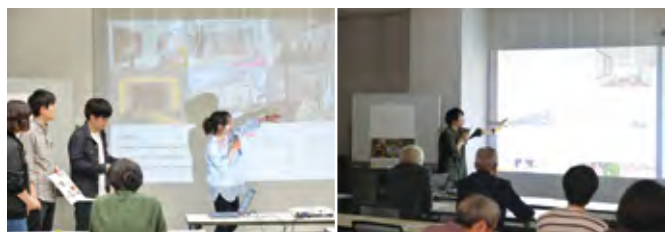
1階計画提案「つなく」(採用案)



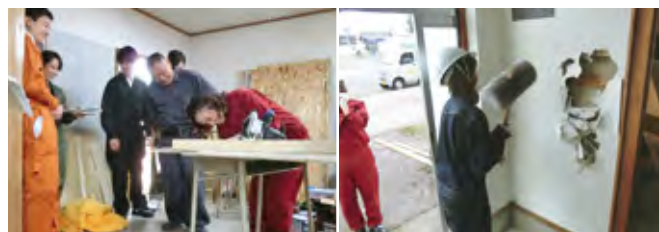
1階計画提案「くつろぎ」



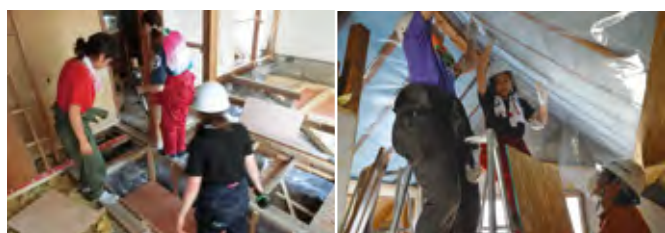
2階計画提案



提案内容プレゼンテーション



1巡目(道具講習会と解体)



2巡目(掘りこたつ、屋根断熱施工ほか)



3巡目(土間施工ほか)



4巡目(珪藻土塗り、各所仕上げほか)



お披露目(地域の方々の見学と交流)

セルフリノベーション参加学生

4年生

中野はるか	4314129	中村文哉	4314130
野村成美	4314132	大坂研斗	4314205
加藤弦生	4314212	菊地博己	4314215
坂井駿斗	4314219	佐々木雄大	4314223
佐原翔太	4314225	鈴木恭輔	4314227
高田絵利	4314228	八箇良昂	4314236
横山梓織	4314244		

2年生

大橋凜翔	4316206	中田滉一	1116241 (経済学部)
------	---------	------	----------------

1年生

高橋茉佑	4317120	田中陽菜子	4317121
藤田奈奈	4317128		



完成記念撮影

居間 Before



居間 After



居間窓前 Before



居間窓前 After



続間和室 Before



続間和室 After



2階4畳半 Before



2階4畳半 After



2階6畳 Before



2階6畳 After



外観 Before



外観 After



～岩見沢市の気候風土を前提とした住居系複合施設の具体的な提案～

本州を中心とする温暖な地域では昔から、雪自体を風流として扱う精神文化があった。一方で、厳しい気候を有する北海道において雪は現実問題として生死に関わる重要な要素であり、建築においてもアーケード空間や風除室等を利用しながら、雪に対して防衛的に扱う傾向にある。しかし、寒冷地向けの建築技術が成熟してきたいま、雪の現象を積極的に取り入れることで、空間体験に多様な変化を与えたり、雪の降る景色と建築空間に新たな関係性を見いだす、雪の現象と共生する建築形式のありかたを提案する。

■自然環境の中で見られる雪の現象と建築を取り巻く雪の現象と文学・絵画・映像作品を通した雪の現象の表現考察



- ① 高い光の反射率をもつ照り返しの特性や、渡辺淳一『阿寒に果つ』における雪の白さに対する柔美的表現から、雪を光源として提案可能性
- ② 建築壁面に偏分布する着雪の特性から多様な見えがかりをもつ壁面の提案可能性
- ③ 波部篤郎『コトバのない冬』の雪が加わることで変わる人々の行動から得られる、雪によって複数の使い方が生まれるような空間の提案可能性
- ④ つららを発生させる積雪の特性から得られる揺らぎのある壁面の提案可能性
- ⑤ 風の向きによって積雪面の形状が変わる吹き溜まりの特性から得られた豊かな造形の提案可能性
- ⑥ 境界の判別を不可能にさせるホワイトアウトの特性から得られる、雪を利用したおおきな広がりを持つ開放的な空間の提案可能性

■北海道における建築作品の歴史の変遷と雪との関係の考察



■以上を踏まえた岩見沢市の気候風土を前提とした住居系複合施設の具体的な提案

北海道全域

岩見沢市市域

志文地区市街地

志文団地敷地



敷地は北海道内でも特別豪雪地帯に指定されている岩見沢に設定する。

その中から、住宅として計画されている比率が高い志文地区を選定。

志文地区の一角に建て替え予定の簡平の市営住宅群が存在する。

耐用年数を迎えた団地の平屋群を地域のよりどころとなるようにコミュニティの場として再生させる。



■具体的な建築手法の提案

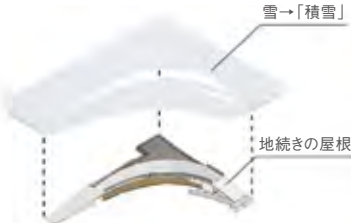


■提案した建築と雪の関係



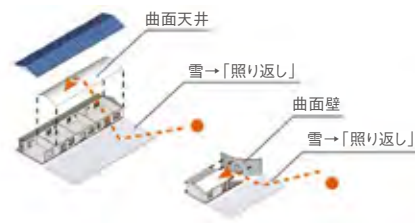
みんなのリビング

みんなのリビングでは、集会所を覆う屋根が空に向かって緩やかに傾斜している。傾斜した屋根の切れ目は他の建物より高く、そこに雪がかぶり、ホワイトアウトを発生させ、大きな広がりのある空間を作り出す。



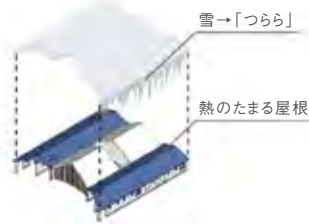
子育ての丘

子育ての丘では、屋根に雪が降り積もることによって、夏は子供が駆け回り、冬には子供のそり遊びの場や、スキー遊びをする場になる。複数の使い方が生まれるような空間が生まれる。



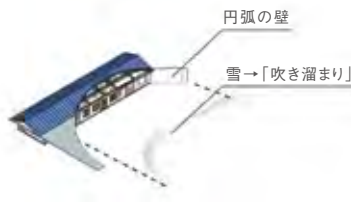
みんなの倉庫・改修後住棟

改修後の既存住棟は室内の天井を曲面とし、雪原を反射した光を部屋の奥まで届ける。みんなの倉庫に設置された光沢のある曲面壁には、雪原の風景が映りこみ、生活者に輝く雪原の風景を提供する。



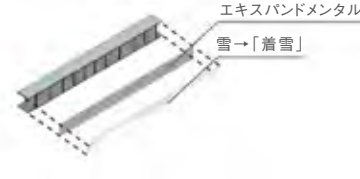
みんなの湯

みんなの湯においては、銭湯の熱源を利用して屋根に積もった雪を溶かし、屋根の端部からつららが形成されていく。つららの壁によってこの団地の風景はゆがんだ新たな風景を作り出す。



みんなのラウンジ

みんなのラウンジに設けられた円弧状の屋根と壁は、風を呼び込み、大きな庭に吹き溜まりを作る。風による雪の造形が壁に付着し、より豊かな造形を作り出す。雪の多様な造形を改めて感じるきっかけとなる。



遊歩路

遊歩路に設けられたエキスパンドメンタルには、雪が着雪し、目が埋まっていくことで、複雑で多様な見えがかりを作り出す。そこから見えていく団地の風景は、より広がりを感じさせる体験となる。



北海道の自然と共棲する住形式と建築材料の探求
 ～札幌市中央区曙地区における住居及び共有空間の具体的提案～

吉田昂平
 Kouhei Yoshida

4312138

北海道の建築は自然からのシェルターとして、冬季の積雪に耐え、厳しい寒さから人々の生活の場を守ってきた。それは、建築における内部空間と外部空間の断絶と接続を生んだ。また、内外の関係性においては、建築材料の特質を利用し、住形式に変化をもたらす事実もある。そのような背景において、北海道の自然環境への理解を深め、それに伴った住形式と建築材料の変化を歴史の変遷の中から明らかにし、建築材料を有効活用した北海道の新しい住形式を探求することを目的とする。



住まい手同士が感情を共有しながら、互いの関係を深めていくことは、希薄化する人々の距離を近付ける。その繋がりは、住まい手に地域への深い愛着にかわり、地域に根付く(住み続ける・住み繋ぐ)生活を創り出し、住処を大切にしている行為として、空き家増加(本研究の中で、空き家問題を全国的に見たとき北海道が抱える主要な問題として捉えた)を抑制することにつながる。「感情を共有する住処」として、上記を目的とした設計を提案する。

SECTION (W-E)

■本設計では、上記のコンセプトに沿って「動線を束ねる」、「新しいグランドライン」、「3つの領域」、「道空間」、「反転体」5つの主要なプログラムを実施した。

1階は、新しいグランドラインに人々を導く役割を担っている。主に敷地西側の「導の領域」(駐車場・駐輪場)から人々を敷地内部に導く。また、「新しいグランドライン」の上に来かる橋が、既存の家屋への動線を生み出している。



1F PLAN (GL+1500)



道空間

駐車場を集約することで生まれた重なる動線と住居へと導く様々な動線、空間同士・住居同士を接続している動線等が様々な交差・錯綜し、出会いを誘発する。また敷地全体に奥行きを与えることで、敷地全体を使い込む要素とし、住処への愛着を強める工夫とする。

2階は、「道空間」が主であり、それぞれの住居と反転体を結んでいる。それぞれの住居からスムーズに下階の各空間へ接続できる、住み手主体の空間として機能する。



2F PLAN (GL+4000)



住居空間

老朽化した低層マンションの二階部分は、これまで通り住居とし、住み手の減少を考慮し、部屋数を削減しながら、リノベーションを行う。生活スタイルの変化に応えながらも、敷地との関係性を意識した設計とする。

地下1階は、本設計において提案した「新しいグランドライン」を設ける。この操作によって生まれた空間で様々な人々の行為が生まれ、その中で感情を共有することとなる。それは、住処への愛着を深めていく。



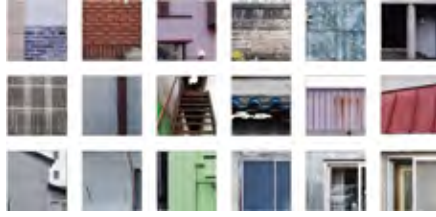
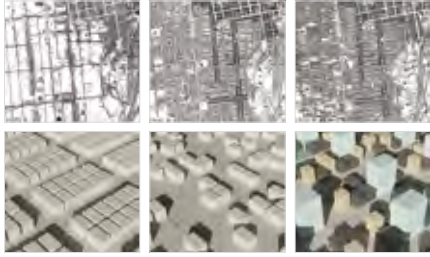
B1F PLAN (GL-1500)



新しいグランドライン

本提案において、最も土台となるプログラムである。地域の基盤となり、敷地全体に一体感を与える。また、敷地における様々な行為を誘発し、使い手にとって多くの思い出を生み、住処への愛着を深める。グランドラインを掘り下げることで、住処の領域を明確化させ、領域内における一体感を創り出した。また、街区周辺の路上駐車を抑制する工夫となっている。材料は業強などに使われるエポックスを使用してあり、音の響きが良い。人々の活気や音として地域に響きわたる。また、住み方に応じて、住み手が加工を施すことも可能である。

SURVEY



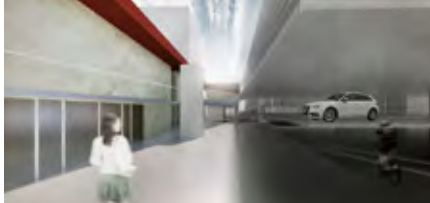
■敷地の歴史的変遷・既存建築物の建築材料・住民とのコミュニケーションを中心に敷地調査を行った。

MODEL

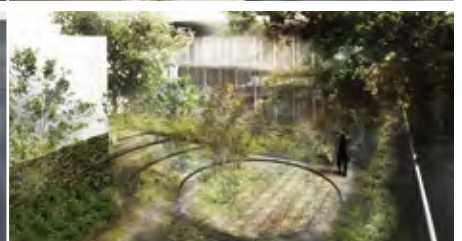
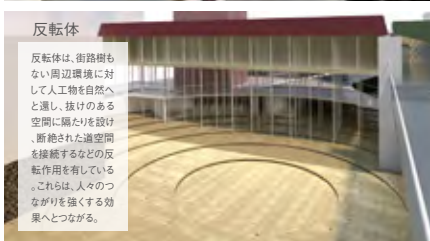


■複雑に錯綜する動線や、建築物のボリューム、建築材料の見え方を検討するため、1:100の模型で検討を行った。

PERSPECTIVE



漕の領域
3つある領域の中で、人々が最も最初に体験する領域。この領域は、駐車場・駐輪場・古物商・託児所の機能によって、人々を敷地内の共有空間へと導く役割を担っている。



反転体
反転体は、街路樹もない周辺環境に対して人工物を自然へと適し、抜けのある空間に開いた道空間、断絶された道空間を接続するなどの反転作用を有している。これらは、人々のつながりを強くする効果へとつながる。



据の領域
この領域は、安心感ある落ち着いた領域として機能する。住処における安心感、住み続けること住み慣くこと、つまり愛着を強める。管理棟・倉庫・公園空間が敷地全体を束ねる。

■北海道の住形式は、前提となる北海道の自然環境に強い影響を受けており、その前提である自然環境を明らかにし、それに伴った住形式の分析を行った。その中で、3つの方向性を見出し、それに従って、新しい建築材料を分類することで、具体的な設計の提案において大いに活用することが出来た。これらの提案が北海道の住形式において、新しい可能性を生み出すことを期待する。

2017年度 北海学園大学 工学部建築学科 設計関連科目担当教員リスト (五十音順)

The list of professor taking charge of the subject about a design '17

4年生2学期 卒業設計	石橋 達勇 Tatsuo Ishibashi 岡本 浩一 Kouichi Okamoto 米田 浩志 Hiroshi Yoneta	工学部建築学科教授 工学部建築学科教授 工学部建築学科教授
1年生1学期 造形演習 I	原井 憲二 Kenji Harai	工学部建築学科教授
1年生2学期 造形演習 II	原井 憲二 Kenji Harai	工学部建築学科教授
2年生1学期 空間デザイン演習基礎	岡本 浩一 Kouichi Okamoto	工学部建築学科教授
	非常勤講師 伊藤 千織 Chiori Ito 高木 貴間 Yoshichika Takagi	伊藤千織デザイン事務所 高木貴間建築設計事務所
2年生2学期 空間デザイン演習 I	石橋 達勇 Tatsuo Ishibashi	工学部建築学科教授
	非常勤講師 石塚 和彦 Kaduhiko Ishiduka 植田 暁 Satoshi Ueda 臼井 巧 Takumi Usui 大坂美保子 Mihoko Osaka 小倉 寛征 Hiroyuki Ogura 小西 彦仁 Hikohito Konishi	石塚和彦アトリエ 風の記憶工場 office for design アーキラボ・ティアンドエム Sa design office ヒココニシ設計事務所
3年生1学期 空間デザイン演習 II	石橋 達勇 Tatsuo Ishibashi	工学部建築学科教授
	非常勤講師 赤坂真一郎 Shinichiro Akasaka 小西 彦仁 Hikohito Konishi 堀尾 浩 Hiroshi Horio 加藤 誠 Makoto Kato 吉本考臣 Takaomi Yoshimoto	アカサカシンイチロウアトリエ ヒココニシ設計事務所 堀尾浩建築設計事務所 アトリエブク 吉本考臣建築設計事務所
3年生1学期 建築デザイン論	米田 浩志 Hiroshi Yoneta	工学部建築学科教授
3年生2学期 空間デザイン演習 III	米田 浩志 Hiroshi Yoneta	工学部建築学科教授
	非常勤講師 赤坂真一郎 Shinichiro Akasaka 高木 貴間 Yoshichika Takagi	アカサカシンイチロウアトリエ 高木貴間建築設計事務所
4年生1学期 空間デザイン演習 IV	米田 浩志 Hiroshi Yoneta	工学部建築学科教授
	非常勤講師 植田 暁 Satoshi Ueda 石塚 和彦 Kazuhiko Ishizuka	風の記憶工場 石塚和彦アトリエ

※科目の順番は作品掲載順による

2017年度 北海学園大学 工学部建築学科 設計作品集 第24号
HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY ARCHITECTURAL DESIGN WORKS '17 vol.24

発行日 / 2018年10月1日

発行 / 北海学園大学工学部建築学科
編集責任者 / 米田浩志
〒064-0926
札幌市中央区南26条西11丁目
TEL: 011-841-1161
FAX: 011-551-2951
URL: eng.hgu.jp/arc

編集・デザイン / エイチエス株式会社
〒064-0822
札幌市中央区北2条西20丁目1-12佐々木ビル
TEL: 011-792-7130
FAX: 011-613-3700

